

# 能登地域における人材育成事業

## 活動報告書

～マイスタープログラムの成果と展望～

【平成 19（2007）.10～令和 4（2022）.3】

令和 4（2022）年 3 月

金沢大学 先端科学・社会共創推進機構



# 目次

はじめに .....	1
1. マイスタープログラムの概要 .....	1
1-1. 人材育成事業—能登で人材育成をするということ .....	1
1-1-1. 大学のキャンパスから能登の現場へ .....	1
1-1-2. 拠点形成 .....	2
1-1-3. 地域との連携 .....	4
1-2. マイスタープログラムのあゆみ .....	4
1-2-1. 「能登里山マイスター」養成プログラム .....	4
1-2-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム .....	7
1-2-3. 「能登里山里海 SDGs マイスター」プログラム .....	9
1-2-4. 遠隔教育科（日本語コース） .....	10
1-2-5. 通信教育科（英語コース） .....	12
1-3. 人材養成・育成の手法 .....	13
1-3-1. 「能登里山マイスター」養成プログラムのカリキュラム概要 .....	13
1-3-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラムのカリキュラム概要 .....	16
1-3-3. 能登里山里海 SDGs マイスタープログラムのカリキュラム概要 .....	22
1-4. 「マイスター」認定の基準および称号について .....	25
1-4-1. マイスター認定基準 .....	25
1-4-2. 称号の授与 .....	26
2. 受講生の概要 .....	27
2-1. 受講生データ（年齢・居住地・職業） .....	27
2-1-1. 「能登里山マイスター」養成プログラム受講生 .....	27
2-1-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム受講生 .....	28
2-1-3. 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム受講生 .....	29
2-2. 修了生データ .....	30
2-2-1. 「能登里山マイスター」養成プログラム修了生 .....	30
2-2-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム修了生 .....	31
2-2-3. 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム修了生 .....	31
3. 卒業課題研究の概要 .....	32
3-1. プログラム別の卒業課題研究の特徴 .....	32
3-1-1. 「能登里山マイスター」養成プログラム修了生の研究の特徴 .....	32
3-1-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム修了生の研究の特徴 .....	32
3-1-3. 「能登里山里海 SDGs マイスター」プログラム .....	33

3-2. 卒業課題研究の特徴.....	34
3-2-1. 生物文化多様性に関する研究.....	34
3-2-2. 世界農業遺産「能登の里山里海」の現状に関する研究.....	35
3-2-3. SDGs と能登に関する研究.....	37
3-2-4. 新たな価値の創造、情報発信に関する研究.....	38
3-2-5. 地域活性化へ向けた保全・活用方策に関する研究.....	39
4. 卒業課題研究のテーマ別題目一覧.....	40
4-1. 環境・環境保全.....	40
4-2. 観光・交流.....	40
4-3. 子育て・教育.....	41
4-4. 工芸・アート.....	42
4-5. 水産業.....	42
4-6. 製造・販売.....	42
4-7. 地域資源.....	43
4-8. 地域振興プラン.....	44
4-9. 地域文化.....	45
4-10. 福祉・健康.....	46
4-11. 林業.....	46
4-12. 農業振興.....	47
4-13. 新規就農・就業・起業.....	47
4-14. 農業経営.....	48
5. 修了後の活動.....	49
5-1. 修了生への支援体制.....	49
5-1-1. 就農支援.....	49
5-1-2. 創業支援 能登里山里海創業塾.....	49
5-1-3. 研究支援.....	50
5-2. 修了生の活動事例.....	50
5-2-1. 生業を活かした地域振興.....	50
5-2-2. 地域資源を活かしたビジネス展開.....	51
5-3. 更なる連携活動の拡大とその特徴.....	51
5-3-1. 修了生による同窓会組織の設立.....	51
5-3-2. NPO 法人化と社会連携活動の拡大.....	51
5-3-3. イフガオマイスターとの連携による活動.....	52
5-3-4. 協働による活動.....	53
6. 視察の受け入れ実績.....	53
おわりに.....	54

巻 末 資 料

【資料1 マイスタープログラムのあゆみ】 .....	i
【資料2 マイスタープログラムへの視察受け入れ実績】 .....	v
「能登里山マイスター」養成プログラムへの視察受け入れ実績.....	v
「能登里山里海マイスター」育成プログラムへの視察受け入れ実績 .....	vi
能登里山里海 SDGs マイスタープログラムへの視察受け入れ実績.....	vii



はじめに

## 1. マイスタープログラムの概要

### 1-1. 人材育成事業—能登で人材育成をするということ

#### 1-1-1. 大学のキャンパスから能登の現場へ

日本海に面する能登地域は豊かな里山里海といった強みがある反面、過去 30 年間で耕作放棄地は増大し、農村経済、文化的遺産、食料の安全、生物多様性の変化への影響が懸念されています。能登の里山里海で今、起きている里山放棄は深刻なものとなり、豊かな食文化を支える資源は減少し、高齢化で山間部集落の維持は困難なものとなっています。また、伝統文化も衰退の危機に瀕しています。地域の切迫感は大変に大きい地域と言えます。

しかし、能登再生の可能性が全くないわけではありません。新しい時代の第一次産業を担う人材、豊かな地域資源を生かした新しいビジネスを創造する人材が定着すれば、能登再生の展望は見えてくるのではないのでしょうか。

金沢大学では平成 14 (2002) 年から社会貢献事業の一環として、能登半島を中心に 8 回のタウンミーティングを重ねてきました。この過程において、地域を再生するために就農を志す若い担い手を能登に呼び込み、環境保全型の農業を実践し、農産物に二次、三次の付加価値をつけて市場に出すとともに、能登の自然や文化資源を活かしたグリーンツーリズム型観光の拠点を創り出す地域リーダーを養成することが必要と考えました。そして、平成 19 (2007) 年 10 月、生物多様性の保全を目的としたトキを呼び戻す地域の実践活動をカリキュラムに取り入れるなど、里山復興を核とした地域再生モデルとして全国に発信することを目的として、「能登里山マイスター」養成プログラムの事業をスタートさせました。

能登の里山里海を起点に、志を持って集った多様な人々の間での相互の学び合いを通じて、①地域の課題を客観的に分析し、②新たな視点から価値を発見し、③試行・実践を通じたプランの具体化への支援に取り組むことと致しました。このような人材育成の拠点としては、大学というキャンパスではなく、あえて能登の現場での事業展開を選択しました。その拠点が、金沢大学能登学舎（通称：能登学舎）です。

能登学舎では、文科省科学技術振興調整費による「能登里山マイスター」養成プログラム<平成 19 (2007) 年～平成 24 (2012) 年>、三井物産環境基金による「能登半島里山里海アクティビティ」<平成 21 (2009) 年～平成 24 (2012) 年>、同じく三井物産環境基金の支援では「能登半島里山里海自然学校」は、三井物産の支援<平成 18(2006) 年～平成 20 (2008) 年>で立ち上げ、現在も継続しています。そのほか、日本財団による「能登いきものマイスター養成講座」などの人材養成に取り組んできました。これらのカリキュラムの運営にあたっては、能登学舎に生態学や農学を専門としたスタッフが教員として常駐し、さらに、シニアスタッフを 3 名加え、マイスター受講生の指導にあたりました。

人材育成事業としてのマイスタープログラムの受け入れ態勢は極めてオープンであり、地域の潜在的クリエイターの発掘や、ものづくりのマインドをもった人材を呼び込むベースになっています。

第1フェーズとしての「能登里山マイスター」養成プログラムに始まり、第4フェーズである現在の能登里山里海 SDGs マイスタープログラムに至るまで（本報告書では、以下「マイスタープログラム」と総括する）、フェーズを区切りながら事業展開しており、全フェーズ合計で210名を超す修了生を輩出してきました（表1）。

表1 マイスタープログラムの4つのフェーズ

フェーズ	開始	修了	
第1	平成19(2007)年 10月	平成23(2011)年 9月	「能登里山マイスター」養成プログラム 1期生～4期生
第2	平成24(2012)年 10月	平成27(2015)年 9月	「能登里山里海マイスター」育成プログラム 1期生～3期生
第3	平成28(2016)年 4月	平成30(2018)年 3月	「能登里山里海マイスター」育成プログラム 4期生～6期生
第4	令和元(2019)年 6月	令和4(2022)年 3月	能登里山里海 SDGs マイスタープログラム 2019年度生～2021年度生

### 1-1-2. 拠点形成

石川県金沢市から高速バスで約3時間の距離にある石川県珠洲市の能登学舎は、日本海に面する建物であり、廃校を再利用した研究・教育施設です（図1）。平成19(2007)年4月、「能登里山マイスター」養成プログラムの開始前に、珠洲市が施設改修を行い整備しました。

3階建ての能登学舎（図2）には講義室、理科室、演習・実習室、図書室、展示室、サロニールーム、スタッフルームのほか、地元住民の方々が地元の食材で提供する食堂「里山里海食堂へんざいもん」（図3）が開設されています。また、図書室には関連書籍等が配架されており、受講生や修了生は図書室の蔵書を借りながら研究を進めることができます。



図1 能登学舎の位置



能登学舎内には、マイスタープログラムの教員・事務スタッフをはじめ、里山里海の利用・保全を目的とした活動を行う NPO 法人能登半島おらっちやの里山里海のスタッフとその会員、珠洲市企画財政課自然共生室の研究員、能登 SDGs ラボのスタッフなど約 10 名が常駐しています。

毎年 4 月には校庭で、小泊地区主催の桜まつりが開催されるほか、各種ワークショップの開催など、地域住民の文化活動の拠点としても能登学舎は利用され、マイスタープログラムの受講生や修了生のみならず、地域住民や、国内外の研究者が来訪される拠点となっています。

また、能登半島の先端という地形を生かして大陸からの黄砂飛来を採取、研究する日本有数の拠点「大気観測・能登スーパーサイト」が設置されています。金沢大学の研究者のほか、他大学や関係研究機関の研究者らが調査を目的に来訪するなど、地理的特性を活かした研究拠点としても活用されています。

このほか、能登学舎の周辺には実習圃場として水田圃場 10 a、施設園芸圃場 5 a、露地園芸圃場 15 a を確保しており、栽培実習や生育調査のフィールドとして活用しています。



図 2 能登学舎外観（石川県珠洲市小泊）



図 3 へんざいもんでの食事メニュー（一例）



図 4 園芸圃場整備の様子

### 1-1-3. 地域との連携

「能登里山マイスター」養成プログラムを平成 19（2007）年 10 月に開始するにあたって、金沢大学は連携する自治体である奥能登 2 市 2 町（輪島市・珠洲市・穴水町・能登町）と平成 19（2007）年 7 月に「地域づくり連携協定」を結び、地域課題に協働して取り組むことで合意しました。自治体や地域住民と議論を深め、能登に必要な人材養成を実施するという明確な方向性を打ち出す中で、各自治体はマイスタープログラムの受講生募集業務として広報活動を行うこと、並びに遠隔地からの受講生に対する移住のための支援を行っています。

さらに、併設する金沢大学の環境学習プログラム、能登半島里山里海自然の行う里山保全活動や環境教育活動に受講生や教員スタッフが参加することで、地域住民との連携を図っています。NPO 法人能登半島おらっちゃんの里山里海が行う事業を活用することにより、受講生の学習機会や雇用の場の提供を受けています。

このような取り組みは、石川県や自治体、大学が連携する「能登キャンパス構想推進協議会（現・能登キャンパス推進協議会）」、金沢大学の「地（知）の拠点整備事業」等にも継承され、大学、学生、マイスター受講生・修了生の英知を結束し、地域課題の解決や、社会貢献に役立てられています。

### 1-2. マイスタープログラムのあゆみ

#### 1-2-1. 「能登里山マイスター」養成プログラム

平成 19（2007）年 10 月、文科省の科学技術振興調整費の助成金である「地域再生人材創出拠点の形成」を財源として「能登里山マイスター」養成プログラムを 5 年計画で開始しました。金沢大学の幅広い研究教育分野を使い、能登地域におけるビジネス展開ができるリーダー人材を養成し、アグリビジネスの創出、交流人口の拡大を図る取り組みをスタートさせました。

後述（1-3 参照）するように、カリキュラムの内容は生物多様性など生態学と農業を中心とした一次産業に二次（加工）、三次（サービス）の付加価値をつけることを切り口としました。農林水産業の基礎的な講義・実習に最低 1 年かけて行い、これに講義をベースとした地域文化やビジネス講座を組み入れた、受講期間を 2 年間とするカリキュラムを実施しました。

マイスタープログラムが目指す地域再生の能登型モデルは、農業をベースとした自然共生型地域づくりであり、能登が本来持つ自然や里山里海の景観、伝統的な祭りなどの文化資源を活かしたグリーンツーリズム型観光地の拠点化です。そのシンボリックな取り組みとしてトキを呼び戻す実践活動と連携し、トキが舞い降りる豊かで美しい能登の里山づくりに取り組みました。

#### 1-2-1-1. 自治体との連携

各組織の将来を担うリーダー人材として養成すること、およびマイスタープログラムを通じて各団体と金沢大学の連携を強化することを目的に、連携自治体である石川県、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町の奥能登2市2町から講師の派遣や定住支援、受講生の募集に関するサポートを得ました。特に、奥能登地域の連携自治体（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）は、次の3点において連携にあたっています。

- ① 受講生を幅広く集める募集業務
- ② 若手職員のプログラムへの派遣
- ③ 定住を希望する受講生への空き家や農地の斡旋支援

また、石川県からは、石川県立大学、県立の研究機関、シンクタンクからの講師の派遣を得ました。農業法人や企業等の民間からの協力を得て、受講生が働きながら学べる受け皿も整えました。平成20（2008）年7月に設立した「能登里山マイスター支援連絡会（通称；マイスター支援ネット）」では、登録する53人の大規模農家などの支援を受けて、就農を希望する受講生、修了生の研修を兼ねた農業アルバイトとしての雇用を図っています。また、NPO 法人能登半島おらっちやの里山里海など様々な組織に支援・協力組織として連携し、運営にあたってきました。

#### 1-2-1-2. 募集概要と養成を目指す人物像

「能登里山マイスター」養成プログラムが育成を目指す方向性として、以下の3タイプを兼ね備えた人物を想定しました。

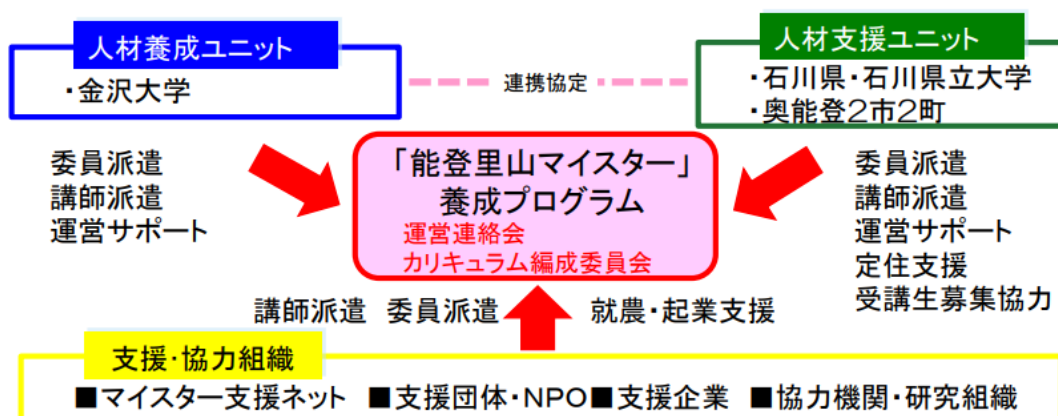
- ① 環境配慮と生産技術に工夫を凝らす農林業人材
  - ・ 能登の里山里海に新たな技術を取り入れる、すなわち、環境に配慮した里山の活用、環境配慮型の農林漁業を中心に取り組む人材
- ② 農産物に付加価値をつけるビジネス人材
  - ・ 消費者のニーズを取り入れた農林水産業の産品に付加価値をつけることができる人材
- ③ 地域と連携し新事業を創造する地域リーダー人材
  - ・ 観光産業や食品産業、林業、水産業との連携により、地域ぐるみの新事業や活動を創出できる人材

定員は一期15名程度とし、5年間で修了者を60名以上とする目標を設定しました。連携自治体が過疎化対策として新規参入者の受け入れに積極的であることに対応し、養成対象者は、40歳前後の就農に意欲的な人材、Uターン希望者と、農林業の後継者、自治体職員としました。特に、今後の人生を考えて再チャレンジを希望する都市部の人材を広く募集しました。自治体職員や各種組合職員については、リーダー人材になるとともに、産官学の連携を担うコーディネーターとしての役割を担う人材へと養成することを目指しました。

したがって、通常の人材養成であるような大学院の社会人コースの設置や、研究施設での研修のやり方をとらず、直接、能登の現地で実施することに本プログラムの特徴があります。2年間を通じて、受講料は無料としました。

受講生の募集については、募集要項を策定し、連携機関に配布、ホームページ上での募集を実施しました。自治体の推薦の他、一般公募については、東京（JICA 地球ひろば）、金沢（金沢大学）、能登（能登空港）で毎年募集説明会を開催しました。東京および金沢での説明会では、新規就農希望者やUターン希望者を対象とし、能登での説明会では、地元の農林漁業の後継者および自治体職員を対象として実施しました。

受講生の選考方法では、履歴書と志望動機書の提出と、能登学舎スタッフによる面接により、受講の可否を決定しました。



### 1-2-1-3. 「能登里山マイスター」養成プログラムの成果

- ① 5年間で62人の「能登里山マイスター」を輩出。このうち52人が能登地域に定着し（定着率84%）、奥能登2市2町に14人が移住。能登を活性化する多様な取り組みの主体として活躍
- ② 「能登里山マイスター」が活躍するための支援体制を確立（地元農業者による「マイスター支援ネット」、修了生OB会「能登里山マイスターネットワーク」）
- ③ 自治体が里山里海の取り組みを重視し、施策に反映（珠洲市自然共生室ほか）
- ④ 金沢大学の能登における教育研究拠点づくりが具体化
- ⑤ 金沢大学と連携自治体による自前資金で、後継事業「能登『里山里海マイスター』育成プログラム」の実施（平成24（2012）年10月開講）
- ⑥ 世界農業遺産「能登の里山里海」認定（平成23（2011）年）を後押し（マイスタープログラムが構成資産要素に取り上げられる）
- ⑦ 能登での地域人材育成事業の評価が、金沢大学COC事業の採択につながる。

## 1-2-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム

すでに「能登里山マイスター」修了生が各分野における中核的人材として活躍している中で、平成 25 (2013) 年 10 月、金沢大学および奥能登 2 市 2 町 (輪島市、珠洲市、穴水町、能登町)、石川県の共同出資約 4,000 万円による人材育成事業として「能登里山里海マイスター」育成プログラムを開講しました。

国連大学高等研究所(UNU-IAS)およびいしかわ国際協力研究機構 (当時) を中心に計画を開始した「日本における里山・里海のサブ・グローバル評価 Sub-global Assessment (通称:里山里海 SGA)」や「日本の里山・里海評価(Japan Satoyama Satoumi Assessment: JSSA)」が実施され、「SATOYAMA イニシアティブ」が始まり、能登地域が佐渡地域とともに「世界農業遺産 Globally Important Agricultural Heritage Systems (通称; GIAHS)」に認定されるなど、里山里海の国際化が進みつつある時期でした。こうした状況を背景に、「能登里山里海マイスター」育成プログラムは、新たに里山を調査するだけではなく、すでに蓄積されている知見を集め、比較検討する中で、地域課題に取り組む作業を目指しました。

「能登里山里海マイスター」育成プログラムのカリキュラムの具体的な内容は、後述 (1-3 参照) するように、能登の農林水産業を活性化させ、農林水産業の持続可能性を高め、生物多様性を活用し、文化、国際交流につなげていくこと、何より、里山里海への大きな着目のなかで、世界農業遺産「能登の里山里海」という観点を切り口としています。

### 1-2-2-1. 募集概要と育成を目指す人物像

世界的に価値があり、次世代に受け継ぐべき重要な伝統的な農業、林業、水産業や生物多様性、関連する伝統知識、農村文化、農業景観などを、時代に合った形で持続的に保全・活用を行うことができる人材が必要との観点から、育成を目指す人物像については下記の 2 点と致しました。

- ① 能登の里山里海の価値を理解し、率先して地域課題に取り組む人材
- ② 自然と共生する「持続可能な能登の社会モデル」を世界に発信する人材

受講生の定員は一期、30 名程度に設定し、3 年間で 60 名の修了生を輩出することを目標としました。

受講対象者は、下記の 3 点について自ら学ぶ意欲を持ち、能登地域のリーダーを目指す 45 歳以下の次世代リーダーを対象としました。

- ① 能登に定住し自然や文化を学びたい
- ② 里山里海についてより良く理解したい
- ③ 里山里海を仕事に活かしたい

また、マイスター修了後に再度プログラムを受け直したいという要望に応え、希望者には特別研究生の制度を設けました。また、45 歳の受講対象年齢を超え、受講資格を満たさない場合であっても、特別聴講生として広く門戸を開き、リカレント教育を実践しました。

なお、受講期間については1年間で知識を習得するカリキュラムに変更しました。また、受講料を1期生から3期生までが無料、4期生からは資料代として2万円で実施しました。

受講生の募集については、募集要項を策定し、連携機関や図書館、道の駅などに配布、地元ラジオやケーブルテレビ、ホームページ上での募集を実施しました。また、多様な人材を地域内外から受け入れるべく、毎年、東京（金沢大学東京事務所）、金沢（金沢大学）、珠洲市、能登町、輪島市、七尾市、羽咋市など多数の会場での募集説明会を開催しました。スタッフによる受講説明のほか、修了生による受講アドバイスを設けるなど、受講希望者の疑問や不安にこたえるよう工夫をしました。

受講生の選考方法では、履歴書と志望動機書の提出と、能登学舎スタッフによる面接により、受講の可否を決定しました。

#### 1-2-2-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム（1期生～3期生）の成果

- ① 3年間で66名の「能登里山里海マイスター」を認定。修了生のうち奥能登地域移住者は12名
- ② 金沢大学の能登における教育研究拠点づくりが具体化（能登町、輪島市、穴水町での塾開講）
- ③ 修了生のネットワークを主体にした、地元青年団体を巻き込んだ独自の活動が活発化（「青年リーダー100人会議 in 珠洲」）
- ④ 能登の人材養成ノウハウを活用して、フィリピンでの「イフガオ里山マイスター養成プログラム（JICA 草の根技術協力事業）」が採択
- ⑤ 珠洲市からの寄附によって設置した「能登里山里海研究部門」との連携による事業の継続・自立化
- ⑥ 金沢大学共通教育科目「里山里海体験実習 in 能登半島」として、マイスターの講義・実習ノウハウを大学教育に活用

#### 1-2-2-3. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム（4期生～6期生）の成果

- ① 3年間で55名の「能登里山里海マイスター」を認定。修了生のうち奥能登地域移住者は16名
- ② 外部からの評価（イノベーションネットアワード2018 文科大臣賞）
- ③ 地元金融機関と連携した「能登里山里海創業塾」の開講
- ④ NPO・地域住民・修了生・受講生との共同講義の実現
- ⑤ SDGs 未来都市の選定（珠洲市）
- ⑥ 本科、遠隔教育科（日本語、英語）の3コース体制の構築

#### 1-2-2-4. 地域との連携

受講生同士での議論のみならず地域の住民や行政などとともに、地域活性化に向けた具体的方策として提言することを目的としてシンポジウムやオープンキャンパスなどを開催しました。その1つが、5期生の第19回講義でシンポジウムのスタイルで実施した『『地域の価値』を活かした農村の暮らしと生業』の講義です。さらに6期の第10回講義では、「人材育成が地域活性化に果たす役割－『能登里山里海マイスター』育成プログラムの10年の歩みとこれから」と題し、フォーラムを開催しました。中村浩二氏（前マイスタープログラム代表、金沢大学名誉教授）による「マイスタープログラム10年の歩みと期待」とのタイトルで基調講演が行われました。

また、活動拠点として、珠洲市の能登学舎以外にも輪島市（輪島里山里海塾）、能登町（ふるさと未来塾）、穴水町（農業者養成塾）など、連携する自治体にも活動拠点が設置されたことにより、より受講生の関心、課題に沿ったカリキュラムを提供できる環境を整えました。

#### 1-2-3. 「能登里山里海 SDGs マイスター」プログラム

平成30（2018）年6月、珠洲市が内閣府の「SDGs 未来都市」に選定されました。その際には、平成19（2007）年度から実施してきたマイスタープログラムの実績も高く評価されました。「SDGs 未来都市」の選定に伴い、新時代の「里山里海とともにある地域」を創出するとともに、「Sustainable Development Goals；持続可能な開発目標（SDGs）」の理念である「環境・社会・経済分野の相乗効果を担った持続可能な社会づくり」、「誰ひとり取り残さない社会」の目標達成を目指し、令和元（2019）6月から「能登里山里海 SDGs マイスタープログラム」を開講しました。

カリキュラムの具体的な内容は、後述（1-3参照）するように、積極的に持続可能な開発目標（SDGs）の理念である「環境・社会・経済分野の相乗効果を狙った持続可能な社会づくり」、「誰ひとり取り残さない社会」と向き合う科目を取り入れ、新時代における「里山里海とともにある地域」の創出を目指しています。

##### 1-2-3-1. 募集概要と育成を目指す人物像

能登里山里海 SDGs マイスタープログラムにより育成を目指すのは、以下の3点を兼ね備えた人物です。

- ① 里山里海の価値を活かした能登ならではの SDGs モデルづくりに寄与できる人
- ② 人々と連携しながら、地域課題解決、生業活動の実践、調査・探究活動、新たなアイデアの提案などに自ら取り組む人
- ③ 能登のもつ素晴らしい価値を世界に向けて発信できる人

能登里山里海 SDGs マイスタープログラムでは、これまでに「マイスタープログラム」で実施してきた内容を「本科コース」とした上で、より専門性を高めた「専科コース」を新たに設置するなど、時代や地域のニーズに対応した内容の充実を図りました。

本科コースの定員は 20 名、対象年齢を年齢が 49 歳以下とし、能登の里山里海に関する理解を深めたい方、地域課題解決または生業活動の実践、調査・探究活動、新たなアイデアを考えている方を対象としました。また、専科コースの定員は 5 名とし、「能登里山マイスター」「能登里山里海マイスター」「能登里山里海 SDGs マイスター」のいずれかの称号を既に有する方、あるいはこれまでのキャリアで相当の専門性や経験を有している方を対象としました。3 年間で本科コース 60 名、専科コース 15 名のマイスター修了生を目標としました。受講料は両コースとも 3 万円に設定しました。

受講生の募集については、募集要項を策定し、連携機関などに配布、ホームページ上での募集を実施しました。募集については、東京（金沢大学東京事務所）、金沢（金沢大学）、珠洲市、能登町、輪島市、七尾市の各会場で毎年募集説明会を開催しました。令和 2（2020）年度および令和 3（2021）年度の募集については、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、募集人数を令和 2（2020）年度は 10 名、令和 3（2021）年度は 15 名に設定した上で、オンラインビデオ通話システムも活用しながら募集説明会を実施しました。

受講生の選考方法については、本科コース希望者は履歴書と志望動機書を提出すること、また、専科コース希望者は履歴書と、地域課題の背景や活動目的を具体的に記載するプロジェクト計画書を提出することとし、その後、能登学舎スタッフによる面接を経て受講の可否を決定しました。

#### 1-2-3-2. 地域との連携

平成 31（2019）年 12 月、地域内外の住民、関心を寄せる方向けにマイスターオープンキャンパスを実施しました。当日は、講義の場所を能登学舎から「ラポルトすず」（珠洲市）へ移し、能登里山里海マイスターネットワークと能登 SDGs ラボの共催で「能登 SDGs セッションズ」と題してオープンキャンパスを開催しました。セッションでは 7 名の修了生が登壇し、自身の活動における取り組み内容を報告しました。この講義は、石川県産業創出支援機構・金沢大学「第 7 回いしかわスタートアップステーション」の一環として開催されたこともあり、多くの来場者がオープンキャンパスの議論に加わりました。

#### 1-2-4. 遠隔教育科（日本語コース）

平成 28（2016）年より、金沢大学の Learning Management System (LMS) として採用されている Webclass を利用し、「能登里山里海マイスター」育成プログラムの講義テーマと同一内容の動画配信とレポートの通信添削、短期現地研修（以下、スクーリング）による遠隔教育システムを立ち上げました。



遠隔教育科では、本科の受講が困難な方にも学びの機会を広く提供しようとする観点から、マイスタープログラムの人材育成の対象とは異なり、年齢制限は設けず、「能登の里山里海の自然や文化を広く学びたい」「能登の里山里海の課題解決と活性化に関わりたい」との目標を持つ本科コースの受講が困難な方、50歳以上の社会人、大学生、高校生などを広く募集しています。



図 1 遠隔教育科スクーリング

受講期間は1年間とし、毎月1～2回で年間に10回程度、各3時間の講義を配信しています。受講する講義は、平成28(2016)年度から平成31(2019)年度にかけて実施されたマイスタープログラムの30講義以上の中から10科目を選択してレポートを提出すること、並びに実習レポートを提出することで修了認定されます。

カリキュラムは、「里山里海再生学講座」、「里山体験実習」「里海体験実習」の3つの分類で構成しています。まず、必修の科目である「里山里海再生学講座」は、里山里海の生態系サービス、能登の風土と伝統技術、地域資源を活かしたブランド化戦略、6次産業化などのテーマを受講することができます。

また、聴講するだけでなく、通学科の受講生とのディスカッションや、体験学習を希望している受講生に対しては、いつでも通常のマイスター講義の体験講義に参加することも可能としています。スクーリングによる受講科目として1泊2日で体験実習を行う「里山体験実習」と「里海体験実習」があります。このうち、どちらかの一方の講義を選択することで単位を修得します。「里山体験実習」では、これまでに環境配慮型農業と生物多様性、輪島塗の製造工程と伝統技術の継承を学ぶ講義などを実施してきました。「里海体験実習」では、定置網漁法と水産業の6次産業化、里海の生物多様性と環境教育、能登の豊かな漁業資源(牡蠣養殖)を学ぶ講義を実施してきました。

#### 1-2-4-1. 修了要件

遠隔教育科の修了要件は、次の通りです。

- ① Webclass を利用した受講やスクーリングを通じて各コースから1科目以上選択して聴講し、レポートを提出。(4単位以上修得した受講生には、「聴講証明書」を授与)
- ② 実習レポート、あるいは実習に参加できなかった場合の代替レポート(能登あるいは他の里山里海地域での体験をレポートにまとめる)を提出。

#### 1-2-4-2. 受講生データ

これまで受講生を1～4期生を通じて計45名受け入れ（表2）、基準をクリアした13人の修了生に聴講証明書を授与しました。「能登里山マイスター」養成プログラム1期の修了生が遠隔教育科を受講し、修了認定されたケースもあり、通学科修了生の学び直しとしても活用されています。

表2 遠隔教育科実績

		受講者数	修了者数
平成28（2016）年度	1期生	17	5
平成29（2017）年度	2期生	8	2
平成30（2018）年度	3期生	9	1
平成31（2019）年度	4期生	11	5
合計		45	13

#### 1-2-5. 通信教育科（英語コース）

平成28（2016）年より、JMOOCの公認プラットフォームであるFisdом（富士通株式会社による運営する）を利用し、e-ラーニングコンテンツ「Living in Harmony with Nature: Satoyama and Satoumi in Japan and World」を開講・運用しました。講義動画の配信（1.5時間×4コマ分）とレポート提出を求めるとともに、短期現地研修を組み合わせる独自の遠隔教育システムを立ち上げました。受講生の募集に際しては、金沢大学が主催するユネスコ無形文化遺産「能登のあえのこと」を学ぶスタディツアーなどのタイミングに合わせて、留学生関連施設のウェブサイトや、県内の外国語指導助手などのネットワークなども活用して広く周知しました。

受講生は能登の里山里海の自然や文化を現場で学びたい留学生（英語使用者）を中心に募集をかけ、1期生から3期生を通じて合計で16名を受け入れました（表3）。修了基準をクリアした6名の修了生を輩出し、オンラインコース（90分×4レッスン）のレポート提出と、現地スタディツアーもしくはインターンシップの参加レポートを提出した受講生には聴講証明書を発行しました。

また、遠隔教育科の受講生向けに珠洲市で炭焼きを営むマイスター（里山1期・SDGs2019専科）の大野長一郎氏の高付加価値木炭の生産の取り組みについての英語による動画学習コンテンツを作成し、一般にも公開しています。



図2 通信教育科スタディツアー

表 3 通信教育科実績

		受講者数	修了者数
平成 28 (2016) 年度	1 期生	9	3
平成 29 (2017) 年度	2 期生	3	0
平成 30 (2018) 年度	3 期生	4	3
合計		16	6

1-3. 人材養成・育成の手法

1-3-1. 「能登里山マイスター」養成プログラムのカリキュラム概要

「能登里山マイスター」養成プログラムでは、受講生は2年間のプログラムを通じて、一律に同じカリキュラムを受講するスタイルで年間160コマのプログラムを用意しました。



図 3 地域づくり支援を学ぶ

平成19年(2007)度の開講当初の第1期生では、隔週金曜日の18時30分から20時までのと里山空港(輪島市)で実施する「地域づくり支援講座」と、能登学舎で毎週土曜日の9時から12時に実施した座学「自然共生

型能登再生論講座」と「ニューアグリビジネス創出講座」、演習「営農予備演習」の4科目を実施しました。「地域づくり支援講座」では、毎回、豊富な知識を学べるよう能登地域以外からも多様な専門分野の研究者や実務家を外部講師として招へいしました(表4)。平成20(2008)年度の2期生では、この4科目に加え、農林漁業者らによる現場主義にこだわった演・実習として新たに「新農法特論講座」を5科目実施しました。

表 4 「能登里山マイスター」養成プログラム実施科目(参考:第1期生)

科目名	内容	総コマ数
地域づくり支援講座	座学中心とした講義	30
自然共生型能登再生論講座	座学中心とした講義と演習・実習	24(講義12/演・実12)
新農法特論講座	座学中心とした講義と演習・実習	30(講義14/演・実16)
ニューアグリビジネス創出講座	座学中心とした講義と演習・実習	16(講義6/演・実10)
営農実習講座	地元の農家のもとでの実習	44

能登の地域づくりを展望するオリジナルのプログラムとして、カリキュラムにおいては次の4つの特徴を持たせました。

- ① 能登の自然と文化の魅力を文理融合による学際的かつ科学的な視点から解き明かし、地域づくりへの活用方策を学ぶ編成
- ② 能登独自の地域資源への着眼点や IT など、最先端の技術やブランド戦略など起業化に必要な具体的な発想、ノウハウを講義と演習のセット方式で学べる内容
- ③ 具体的な経営と技術の内容を体験的に学び、かつ経営者スピリットの伝授を受けられる現場主義の演習と実習
- ④ 市長や町長、NPO 法人、地元企業などから、これからの能登を担う地域の若手リーダーとして何を考え、どのような行動をして欲しいかという生の声を聞く機会

一方で、農業以外の一次産業（林業・漁業）の位置づけ、1年次と2年次に受講する講義の区分けが明確ではなかった点、受講生の中で就農希望者が増加しつつある点を踏まえ、平成21（2009）年度からは、土曜日の受講時間を16時まで拡張し、「地域づくり支援講座」の他に座学を中心とした「自然共生型能登再生論講座」と「ニューアグリビジネス創出講座」、演習・実習を中心とした「新農法特論講座」、「里山マイスター演・実習」、「里山マイスター基礎概論（1年次）」、「先進事例調査実習（2年次）」「卒業課題演習（2年次）」「卒業課題研究（2年次）」の8科目に再編成しました。演習・実習の時間を多く設定することにより、農林業の担い手として即戦力ある人材の養成を意識しています。

2年次に受講する「里山マイスター演・実習」、「卒業課題演習」は、受講生個々のニーズに沿いつつ実践的できめ細かな教育内容にしていくため、担任制による個別指導を行いました。また、「先進地事例実習」は、その後のプログラムでも継続して行われている実習講義となります（表5）。

表5 先進地事例実習一覧

年度	受講生	場所	視察地
平成20年 (2008)	里山1期	関東 (7月4日～6日)	環境健康フィールド科学センター・地球緑化センター・のとだらぼち築地市場・保田漁協・ばんや・とみうら枇杷倶楽部
		北陸・関西 (8月26日～29日)	かみなか農楽舎・コウノトリの郷公園・京都府農業総合研究所・マツタケ十字軍・体験・山菜摘み農園 じゅうべえ・(有)ファームビレッジさんさん

平成 21 年 (2009)	里山 2 期	中部 (8 月 25 日～26 日)	信濃町役場・JA 佐久浅間 南大井支所・高峰の榊・長野県林業総合センター・奥矢作森林塾・永井牧場
		関西 (8 月 25 日～27 日)	伊賀の里もくもく手づくりファーム・類農園・かね松・高島市商工会議所・滋賀県庁・水口こどもの森・多賀町立博物館・(株) 明宝レディース
平成 22 年 (2010)	里山 3 期	四国 (8 月 21 日～24 日)	(財) 本山町農業公社・NPO 法人グリーンバレー・ゲストハウス UEDA 本藍染矢野工場
		関東 (8 月 28 日～31 日)	しが NPO センター・NPO あそんで学ぶ環境と科学倶楽部・大地を守る会・山藤・(株) フラワーオークション ジャパン・風土記の丘 農産物直売所・NPO 法人 えがおつなげてキープ自然学校
平成 23 年 (2011)	里山 4 期	北信越 (7 月 28 日～30 日)	富士宮アンテナショップ おーそれ宮・成政酒蔵(株)・「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」実行委員会 貸民家みらい・十日町市観光交流課 芸術祭推進室・(株) 岩の原葡萄園 喜楽荘・はすみふあーむ・よしのや
		四国 (8 月 26 日～29 日)	布作家早川ユミ氏宅・高知オーガニックマーケット・テーブルギャラリー・高知県立牧野植物園・黒潮町役場
		九州 (8 月 8 日～10 日)	福萬醤油・ミツル醤油・伊都菜彩・久保田農園・カツオ醤油・HOLA! CAFÉ・大山町農業協同組合木の花ガールデン・
		愛媛 (7 月 25 日～29 日)	今治市農水港湾部農林振興課・ゆうき生協・(株) 内子フレッシュパークからり・西条自然学校・カフェごじんや・AA Studio・まんがら農園・中谷自然農園

受講生による評価とフィードバックを把握するため、講義・実習への出席確認のため提出させる「講義カード」には、招へいして欲しい講師や実習内容の希望などを記入する仕組みを取り入れてカリキュラム運営に反映させました（表6）。

また、平成22年度にはカリキュラム改訂についてのワークショップを計3回実施し、受講生との意見交換を行った結果、グループワークによる栽培実習（平成21年度）、自宅で野菜や水稻を栽培し生育調査を行う「自宅栽培研修」（平成23年度）などを実施しました。

表6 受講生のリクエストを反映した講義・実習例

講師名	内容	実施日
畠山重篤氏 (NPO法人森は海の恋人代表)	里山と海の連環に関心のある受講生（製炭業）が提案。気仙沼の牡蠣漁師による流域の植林活動について講演	平成20（2008）年 3月21日
横石知二氏 (株いんどり取締役社長)	能登サカキ産地化に取り組む受講生が提案。徳島で高齢者らが行う「葉っぱビジネス」について講演	平成21（2009）年 9月11日
杉浦銀治氏 (国際炭焼き協会会長)	製炭業を営む受講生が提案。木炭のもつ多様な機能と可能性について、国際的な経験談も交え講演	平成21（2009）年 12月4日
ジョン・ムーア氏 (ジョン・ムーアオーガニック代表)	有機農業に関心のある受講生（食品加工）が提案。生活にオーガニックを取り入れる工夫や哲学について講演	平成22（2010）年 9月24日

### 1-3-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラムのカリキュラム概要

「能登里山里海マイスター」育成プログラムでは、受講生は1年間のプログラムを通じて、一律に同じカリキュラムを受講します。能登学舎で隔週土曜日の9時～16時に座学である講義と演習・実習を行うほか、フィールド調査を受講することを基本としています。

第1期から3期までの第1フェーズの人材育成にあたっては、次の4つの特色を持たせてカリキュラムを組みました。

- ① 里山里海について学ぶ
  - ・ 能登の里山里海の自然と文化を総合的、科学的に学ぶ
- ② 実践のための演習・実習
  - ・ 地域資源を活用し、コミュニティビジネスや地域活動のための発想法や技術を学ぶ
- ③ グループ形式の演習（ゼミナール）で実践をサポート
  - ・ グループごとにテーマを決め、問題設定、実践力、コミュニケーション、プレゼンテーションなどの能力向上を図る

④ 充実したフォローアップ体制

- ・ 修了生組織である「能登里山マイスターネットワーク」(5-3-1参照)、能登の農林漁業者等による「里山マイスター支援ネット」など、独自の支援ネットワークのサポートを受けることが可能

また、第4期から第6期までの第2フェーズの人材育成にあたっては、能登学舎で隔週土曜日の9時30分～16時30分に座学と演習・実習を行うほか、フィールド調査を受講することを基本とし、次の4つのコンセプトを掲げてスタートしました。

① 里山里海の価値を再評価する

- ・ 能登の自然・文化を多角的、科学的に学び、体験する

② 生態学・生態系サービスの考え方を知る

- ・ 金沢大学の里山里海の教育・研究成果を活用する

③ 能登の里山里海の価値をグローバルに捉える

- ・ 世界農業遺産認定サイトとの交流
- ・ 能登を世界に発信

④ 人と人のつながりを作る

- ・ 里山里海をキーワードに、様々な背景と能力ともつ人々とのネットワークを広げる

講義手法としては、前プログラムである「能登里山マイスター」養成プログラムでの運営を踏まえ、下記の3点を重視しました。

① ミニシンポ形式での講義（大学教員による講義だけでなく、能登地域での実践者（地域づくり活動、NPO法人の代表など）を話題提供者として講義をデザイン）

② 出席レポートの導入（講義内容の理解度を確かめる小課題を提出。出席確認も兼ねる）

③ アクティブラーニング（振り返り）の導入

- ・ 小グループごとにグループディスカッションをして受講生全体で共有する。講師からのコメントを得ることで理解度を深める（図4）



図4 グループディスカッションの様子

さらに「能登里山里海マイスター」育成プログラムでは、第2フェーズから第3フェーズへと進む中で時代や受講生のニーズや課題に沿った学びの重要性を加味しつつ、変化を加えました。

概ね、下記の4つのカリキュラムを中心に講義を実施しています（表7）。

- ① 持続可能な地域発展をめざすことを目的とした講義とフィールドワーク・調査法などの実習で構成する「里山里海再生学」
- ② 視察研修の企画・実施を目的とする「フィールド実習」
- ③ 年3回の報告会および研修相談会の参加を目的とする「プロジェクト研究演習」
- ④ 研究成果を成果報告書として提出する「プロジェクト研究」

表7 「能登里山里海マイスター」育成プログラム実施科目（参考：里山里海5期）

科目名	内容	総コマ数
里山里海再生学講座	座学を中心とした講義	36
里山里海再生学演・実習	フィールドワーク、調査法などの実習	36
先進事例調査実習	視察研修の企画・実施	15
卒業課題演習	テーマ報告会、中間報告会、卒業課題研究成果報告会	16
卒業課題研究	成果報告書の提出	
合計		103

座学の必須科目である「里山里海再生学」では、世界農業遺産、里山里海の生物多様性、里山の歴史・文化、社会調査、里山保全・管理、内発的発展、人材育成、ツーリズム、情報発信、食と景観、プロジェクトマネジメント、社会起業、SDGs などに関する講義と実習、卒業課題演習を実施しました。

講師陣は金沢大学等の大学教員、企業代表者等にも依頼し、修了生も取り組み事例の話題提供者やコメンテーターとして数多く招へいしました。実習では農林漁業や地域づくりのリーダーによる指導を取り入れ、現場主義のカリキュラムを提供しました。講義にはできる限りグループディスカッションを取り入れ、対話の中から地域再生やまちづくりにおける問題解決の糸口を見つけた上で、地域社会でリーダー人材として活動していく道筋を見出すことを狙いとしています。また、毎回出席レポートの提出を課しました。

また、受講生の学びのニーズに合わせ、受講生たちの興味・関心や社会状況に沿ったテーマを設定しながら、新たな講義・実習を開発しています。例えば、奥能登国際芸術祭に関連づけた「美術を軸とした地域づくり」や、珠洲市のSDGs未来都市認定を機に実施した「SDGsと能登」などが挙げられます。このほか、受講生による自主企画講義を継続的に導入していることは大きな特徴の1つであり、受講生たち自身が卒業課題研究を進める上で議論したい講義を企画することで、主体性、リーダー人材としての資質向上を狙いとしています。



具体的には、第5期において受講生からの自主企画提案を募集したところ、5期受講生と修了生から「林業」、「森林管理」、「地域づくり」、「農業」、「人生設計」の5件の講義内容の提案がありました。こうした提案をもとに受講生の意向を踏まえ、第16回の講義で「実践から学ぶ—林業・森林管理と地域づくりの最前線—」と、「人口減少時代の地域づくり」と題する講義を実施しました。また、第18回講義では、「実践から学ぶ—生産者と消費者が連携する農業のかたち（日米比較）」とのタイトルで行い、この講義では、アメリカに在住する農業の実践者とオンラインを結び、同時通訳を交えつつ、日米の農業実践の現状と課題を議論し、知識を深める工夫を行いました。

また、第6期でも受講生による講義の自主企画提案を導入し、企画提案の募集、選定、詳細立案、当日の運営まで、スタッフや各講師との調整を重ねるなど、受講生の講義企画への関与を深めながら、より深い学びの機会を提供しました。その成果として、12月の第16回講義では、「地域資源としての空き家・空き物件の役割と可能性」を実施しました。

また、「能登里山マイスター」養成プログラムから引き続き、「先進事例実習」を実施し、受講生の卒業課題や自身の活動に対して示唆を得る機会としました（表8）。

表 8 先進事例調査実習先一覧

年度	受講生	視察地域	視察先
平成 25 (2013) 年	里山里海 1期	岐阜・福井 (7月13日～14日)	農業生産法人まんま農場・ (株)美ら地球・奥越前まんまる サイト
		徳島・高知 (6月28～30日)	徳島大学地域創成センター 上勝学舎・NPO法人グリーン バレー・有機のがっこう土佐 自然塾・NPO法人84はちよん プロジェクト・NPO法人土佐山 アカデミー
平成 26 (2014) 年	里山里海 2期	瀬戸内海 (7月25日～7月27 日)	朝来市和田山町殿「山城の郷」・ JAたじま和田営農センター・ 海人の館・瀬戸内海エコツー リズム協議会・海の幸ふれあい 市場・くにうみ神話のまちづく り実行委員会
		愛知・岐阜 (7月12日～13日)	美ら地球・木玉毛織(株)・NPO 法人ななしんぼ・明宝山里研究 会・ふるさと栃尾里山倶楽部・旧 遠山家民俗館・白川郷南部地区

		岡山 (7月11日～13日)	越廼漁協(ぬかちゃんグループ)・ 集落丸山・一般社団法人ノ ト・(株)西粟倉・森の学校・木 村農園(だんだんベリー畑)・智頭 町役場・湯～とぴあ 黄金泉・森 のようちえん「まるたんぼうハ ウス」
平成 27(2015)年	里山里海 3期	愛知・岐阜 (6月27日～28日)	美ら地球・「Bio Garden With」・ ちこり村・ささゆりの里布ぞう り研究会
		四国 (7月10日～12日)	新居浜モスク・メイドイン青空・ 中谷自然農園・Washi Studio 紙漉き体験民宿かみこや・NPO 法人土佐の森・救援隊
		北関東 (7月24日～26日)	小布施町役場・野洲麻紙工房・ 益子町役場・Akiha 森のようち えん
平成 28(2016)年	里山里海 4期	愛知・三重 (12月3日～5日)	古宮城址・大杉谷自然学校・政所 茶縁の会・スキヤキ・ミーツ・ザ ワールド実行委員会
		信州・東海 (12月10日～12日)	信州豊丘めん羊飼育協議会・ Rebuilding Center Japan・野風 草・戸田塩の会・郡上割り箸、郡 上木履
平成 29(2017)年	里山里海 5期	関西 (12月10日～11日)	(株)まちづくり柏原・道の駅 おばあちゃんの里・NPO 法人た かつき・ながはま森林マッチン グセンター
平成 30(2018)年	里山里海 6期	佐渡島 (11月3日～4日)	宿根本地区・佐渡市役所・岩首昇 竜棚田・潟上水辺の会

修了生アンケートの結果を踏まえ、少人数でより濃密な能登の里山里海の体験学習が可能な実習プログラム企画を検討した結果、平成 28 (2016) 年の能登里山里海マイスター4 期生の年度より、座学中心の「里山里海再生学」のほかに、世界農業遺産「能登の里山里海」を体験し、調査することを目的とした科目として新たに「能登 GIAHS 調査実習」を実施しました。

平成 28 (2016) 年 6 月に、世界農業遺産 (GIAHS) の認定から 5 年が経過し、改めて認定に際して「能登の里山里海」がどのように評価されたかを振り返ることも必要であると考えました。国連食糧農業機関 (FAO)、生物多様性条約締結国などにより進められている地球レベルの生態系評価や農業景観保全の取り組みが高まる中、里山里海の持続発展が国土的にも、国際的な視点からみても重要であることを実感することで、受講生自身の活動に還元できるよう実習内容を企画しました。

「能登 GIAHS 調査実習」においては、「能登の里山里海」を構成する多様な自然・文化・産業的資産の現状を、受講生それぞれの視点から調査し、体験的に理解する必要があります。そこで、受講生の体験プログラムのメニュー開発にあたっては、活動経験の豊富な修了生の協力を得ています。現役の受講生と修了生とが交流・連携することで、お互いに気づきを得る機会を創出することができました。

より具体的には、「能登 GIAHS 調査実習」のねらいとして、受講生に下記の 5 点を意識させて学んでもらうことを目標としています。

- ① 大人数では体験できない、濃密な現場体験と現地の方々との対話
- ② 新たな協働のきっかけを得ること
- ③ 世界農業遺産「能登の里山里海」の今後の継承発展に関連して、自分自身の興味関心にもとづくかわりが、どのように位置づけられるのかを考えること
- ④ 卒業課題研究に向けたヒアリング、プレ調査として活かすこと
- ⑤ 多様な「能登の里山里海」の現場における経験を受講生同士で共有する機会を通して多面的・多角的に学ぶこと

表 9 能登 GIAHS 調査実習先一覧

年度	受講生	実習先
平成 28 (2016) 年	里山里海 4 期	「能登の植物・山菜の魅力発見」(スタッフ企画)、 「精油(エッセンシャルオイル)の作り方」(修了生企画)、 「まるやま組」(修了生企画)、「能登の獣害対策現場見学」 (修了生企画)、「神社巡り」、「ムスリムと巡る能登 ツアー」(修了生企画)、「伝統技法による塩づくり体験」、 「流下式塩づくり体験」、「七尾城山クリーン大作戦」、 「珠洲市浄化センターバイオマスメタン発酵処理施設見 学」

平成 29 (2017) 年	里山里海 5 期	「伐採見学ツアー」、「高性能林業機械を使用した間伐の現地視察」、「(株) 中野にて高性能林業機械を使用した間伐の現地視察」、「能登の山菜・野草の魅力発見」(スタッフ企画)、「農家民宿体験」、「生物多様性向上 10 年プロジェクト地域交流会 in 河北潟」、「輪島キリコ祭り」
平成 30 (2018) 年	里山里海 6 期	「バンブーチャレンジ 2018-粟津地区の竹林整備作業・竹の活用方法をしよう!!」(修了生企画)、「能登の里海定置網漁体験」(受講生企画)、「植物相モニタリング体験-生物多様性を記録する」(スタッフ企画)、「金蔵満喫-金蔵の自然と寺めぐり」(スタッフ企画)、「能登の植物エクスプローラー! (探検隊)」(スタッフ企画)

「能登 GIAHS 調査実習」を通して、「能登の里山里海」を構成する多様な自然・文化・産業的資産の現状を、受講生それぞれの視点から調査し、体験的な理解を得たことが成果となりました。また、修了生を含む調査実習を受け入れていただいた立場からは、体験プログラムの事業化等の可能性を検討する機会にもなっていました。

また、「能登 GIAHS 調査実習」において、受講生は現地を訪れて体験するだけでなく、実践者の方々に、それぞれの取り組みや事業に関する「経営」・「担い手」・「利用資源」の持続可能性についてヒアリング調査を実施しました。そして、体験的な理解とともに、それぞれ実施されている取り組みや事業と、世界農業遺産との関連性や、地域・社会との関係などを中心にヒアリングした内容を報告することで単位認定されます。

### 1-3-3. 能登里山里海 SDGs マイスタープログラムのカリキュラム概要

「能登里山里海マイスター」育成プログラムを継承しつつ、受講生の学びのニーズや地域社会の変化に応じ、新たな講義・実習プログラムを開発しています(表 10)。能登町にオープンした「イカの駅つくモール」における「能登の里海、世界の SATOUMI」や、平成 27 (2015) 年に国連で採択された持続可能な開発目標 (SDGs) の視点で地域の取り組みを考える講義「里山里海と SDGs で拓く能登の持続可能な未来」などが挙げられます。

表 10 「能登里山里海 SDGs マイスター」プログラム実施科目 (参考: SDGs2020 年度)

科目名	内容	総コマ数
里山里海再生学	講義、フィールドワーク・実習	45
フィールド研究	視察研修の企画・実施(先進事例調査実習・能登里山里海調査実習のどちらか)	13
プロジェクト研究演習	テーマ報告会、中間報告会、卒業課題研究成果報告会	24
プロジェクト研究	成果報告書の提出	-
合計		82

座学である「里山里海再生学」の講義にあたっては、グループディスカッションの機会を多く取り入れ、受講生同士の対話の中から、地域再生やまちづくりにおける問題解決の糸口を見つけた上で、地域社会でリーダー人材として活動していく道筋を養成することを目指しています。

令和元（2019）年より、国際協力の現場で活用されているプロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）手法を学ぶ実習をカリキュラムに導入しています。受講生は、問題分析や計画立案に関する参加型ワークショップの手法を用いて、バックキャスト思考を実感できるSDGsのローカライズ手法への援用可能性を探ります。

また、受講生は「フィールド研究」として、「能登里山里海調査実習」または「先進事例調査実習」のどちらか一方を選択して実習し、報告書の提出と、報告会でプレゼンテーションをすることで単位が認定されます。「能登里山里海調査実習」は、「能登里山里海マイスター」育成プログラムのカリキュラムの一環として、受講生一人ひとりが能登の里山里海の現場について、より深く体験する機会を提供することを目的とした「能登 GIAHS 調査実習」を受け継ぎ、令和元（2019）年以降「能登里山里海調査実習」と名称変更して実施しているものです（表 11）。世界農業遺産「能登の里山里海」に認定された能登地域内の里山里海に関する現場の状況と課題、可能性について、一人もしくは少人数のグループで「能登の里山里海」に関連する現場を訪問し、見学や体験活動を行うほか、実践者や関係者からヒアリングを行います。体験や当事者から聞き取りを行うことで、通常の講義・実習では実施できない、少人数ならではの個別の興味関心に沿った密度の高い体験を行うとともに、報告会を実施し、その成果を受講生の皆で共有するものです。

これにより能登の現場感覚を伴った考察を深めるだけでなく、卒業研究やプロジェクト研究のテーマと関連した取材先を選ぶことで、成果報告に活かすことをねらいとしています。さらに今後、この実習に参加したマイスター受講生が、能登地域において、自身の卒業課題の取り組みがどのように位置づけられるのかを相対化した上で、自身の役割を考え、現場での取り組みを推進し発信すること、並びに自分の住む地域（能登）だけではなく、日本あるいは世界から見た意義や価値を意識させることをねらいとしています。

表 11 「能登里山里海調査実習」一覧

年度	受講生	実習先
令和元（2019）年	2019 年度生	「山あいの集落あるき・座禅、」（修了生企画）、「かみぐっどまるバードウォッチング」（修了生企画）、「大野製炭工場竈づくりプロジェクト」（受講生企画）、「コミュニティガーデン（里山農場）づくり体験から考える里山里海の未来」「土地に根差した「まるやま組」」（修了生企画）、「能登の植生の魅力発見！」（スタッフ企画）、「穴水リトリート体験」（受講生企画）、「ミツバチの生態調査」（受講生企画）

令和2(2020)年	2020年度生	大野製炭工場、ノトノカ精油、イカの駅つくモール、春蘭の里
令和3(2021)年	2021年度生	まちなか鳳雛塾、鳳雛ゼミ、能登里海教育研究所、久田和紙紙工房みわ会、有限会社柳田製網、ヤマガタデザイン株式会社、niji hana oto、すかっとランド九頭竜、のがし研究所、NPO法人海さくら、PEACE ライダーズマリンベース、Fラボ、ルカコ、輪島漆「集いの森」、開宅舎、ノトノオト、能登町役場、REBUILDING CENTER JAPAN

また、能登地域の優位性や課題などを客観的にとらえる機会として、地域外の先進的事例を訪問取材し、情報収集する実習として、先進事例調査実習を実施しました(表12)。この実習では、調査成果が各自の卒業研究に活かされるほか、参加者にとっての新たな学びになることを目標としています。卒業研究やプロジェクト研究のテーマと関連した取材先を選ぶことで、成果報告に活かすことを狙っています。

なお、令和2(2020)年度および令和3(2021)年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染予防の観点から実習は中止しました。

表12 先進事例調査実習一覧

年度	受講生	視察地域	視察先
令和元(2019)年	2019年度生	岐阜 (11月30日～ 12月1日)	「美濃和紙あかりアート館」、 「長良川デパート」、 「清流長良川あゆパーク」、 「郡上八幡水の学校」

「能登里山里海 SDGs マイスタープログラム」以降からは、自身の課題に対して以下に掲げる4つの目標を“プロジェクト”として取り組むことを目的として、従来の「卒業課題研究」から「プロジェクト研究」に名称を変更してスタートさせました。

- ① スキルアップのため
  - ・ テーマの周辺情報・知識の幅を広げ、体系化する。技術習得
  - ・ 問題設定力、調査遂行力、理論的思考力、文章力、説明能力などを養う
- ② 将来設計のため
  - ・ これから実践する農業やビジネス、活動を具体化する
- ③ 地域の諸問題に対する具体的な解決策の提言・実践のため
  - ・ 仕事を活かして地域活性化につなげる
- ④ 知的探究のため
  - ・ 能登の自然・文化などについて調査・研究を行うこと

## 1-4. 「マイスター」認定の基準および称号について

### 1-4-1. マイスター認定基準

「能登里山マイスター」養成プログラムにおける修了要件では、「習得単位数：50点満点」と、「卒業研究（論文または就農計画）50点」の合計100点満点で判定しました。「能登里山里海マイスター」育成プログラムの認定では、修了要件を在学期間中に6科目20単位を取得することとし、各科目60%以上の出席により単位を認定しました。



図5 卒業課題成果報告会の様子

修了要件を満たした受講生には、プログラムの最終日に、卒業課題研究成果報告会での報告が修了要件として課されます（図5）。卒業課題研究成果報告会には、受講生、修了生のほか、地域の方々にも聴講できる体制を整えています。

この発表の後、担任以外の常駐スタッフの主査1名および教員スタッフと外部審査委員で構成される副査2名による「認定会議」が、審査基準に基づく合議によって修了の可否を決定します。審査にあたっては、問題設定能力、調査立案能力、情報分析能力、実現可能性、プレゼンテーション能力が評価されます（卒業課題研究のタイトルについては第3章参照）。

認定会議で合格した受講生は、卒業課題研究成果報告書を提出することで、「マイスター」として認定されます。認定後からは修了生として、卒業研究テーマ等も踏まえながら、多様な地域資源を活かして地域課題解決に貢献することが大いに期待されます。

なお、「能登里山里海マイスター」育成プログラムと能登里山里海SDGsマイスタープログラムの修了生の報告書は冊子としてまとめ、石川県立図書館および珠洲市民図書館に設置され、地域住民に対して広く成果を公表しています。

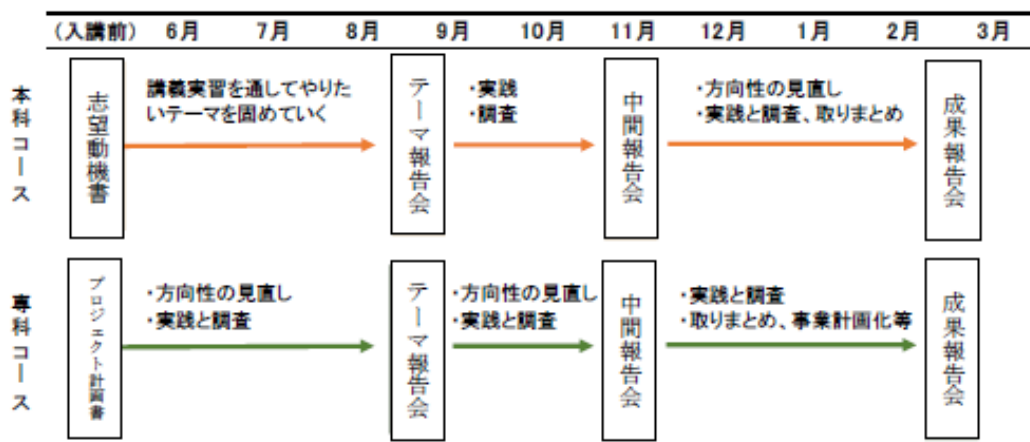


図6 マイスター認定までの流れ（参考：SDGsマイスター2019年度生）

#### 1-4-2. 称号の授与

マイスター認定基準を満たした受講生には、下記、3つのマインドを持った人材であるとして、金沢大学長名で下記の称号を授与しています（表13）。

- ① 多様な人と協働したネットワークを広げながら、活動を展開できる
- ② 高い企画提案能力と発信力を持ち、地域発展の中核となることができる
- ③ 里山里海を利活用するための知見を有し、次世代のリーダーになることができる

表 13 プログラム別称号名

受講プログラム	称号
「能登里山マイスター」養成プログラム	能登里山マイスター
「能登里山里海マイスター」育成プログラム	能登里山里海マイスター
能登里山里海 SDGs マイスタープログラム（本科生）	能登里山里海 SDGs マイスター （本科コース）
能登里山里海 SDGs マイスタープログラム（専科生）	能登里山里海 SDGs マイスター （専科コース）

なお、平成 27（2015）年 3 月の教育再生実行会議の提言を受け、大学等において開講される社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム（BP）」として文部科学大臣が認定する制度がスタートし、「能登里山里海マイスター」育成プログラムも同プログラムとして認定されました。

これを受け、「里山里海マイスター」育成プログラムの 4 期生以降の修了生には、履修証明プログラムとして文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP）」の履修者としても認定されます。



## 2. 受講生の概要

### 2-1. 受講生データ（年齢・居住地・職業）

#### 2-1-1. 「能登里山マイスター」養成プログラム受講生

「能登里山マイスター」養成プログラムの受講生の入学時のデータは、表14の通りです（表14）。受講生の受講時の平均年齢は31歳（表15）。また、受講生の募集に際しては、自治体と連携して公募をしました。そのため、受講生の職業別の特徴として、1期生では16人の受講生の職業別内訳は自治体職員が7人と多く、次いで、その他、地元の民間企業・自営業者が7人となり、自治体からの推薦による受講者は9人でした。2期生22人の内訳は、JA職員が5人、森林組合職員が3人、自治体職員が3人となっており、自治体からの推薦による受講者は10名です。自治体職員や組合所属の受講生が高い割合を示し、各受講生が設定する研究課題も職場で抱える問題をテーマとして設定する傾向が目立ちました（第3章参照）。しかし、3期生19人の職業別特徴は、地元・民間企業・自営業者が10人と多く、自治体職員が5人、無職が5人となっており、域外や県外の受講生が増加するとともに、就農希望者も増えました。4期生は地元民間企業5人、自治体職員3名、農家4名、JA職員3名、自営業他3人で、地元外の企業から1名ありました。

入学時の居住地は、61%が奥能登地域で、次いで、奥能登地域以外の県内が21%、県外が17%、その他（未告知）1%となっています。県外からの受講生は2期生で2人、3期生で5人です。県外からの受講生のうち、修了後の奥能登地域への定着率は86%であり、受講を通して、奥能登地域に関心の目を向けた若者が存在していることを物語る数字となっています。

表14 「能登里山マイスター」養成プログラム受講生の人数および通勤圏

入学年度	受講期	入学者数	特別聴講生	県内奥能登	県内奥能登以外	自治体推薦	就農希望
平成19	1期生	16	—	12	0	9	1
平成20	2期生	22 <sup>※1</sup>	—	15	3	10	3
平成21	3期生	21	9	9	5	5	11
平成22	4期生	33 <sup>※2</sup>	2	17	5	6	2
平成23	—	—	12	—	—	2	—
合計		82 <sup>※3</sup>	23	53	13	32	17

※1 1期生より留年した編入者4名含む

※2 3期生より留年した編入者6名含む

※3 留年者含まない人数

表 15 「能登里山マイスター」養成プログラム受講生の入学時の平均年齢および職業

入学年度	受講期	男女比	平均年齢	職種
平成 19	1 期生	14 : 2	30.87	自治体職員 7 名、民間企業、自営業他
平成 20	2 期生	21 : 1	31.7 歳	JA 職員 5 名、森林組合員 3 名、自治体職員 3 名他
平成 21	3 期生	16 : 4	33.15 歳	自治体職員 5 名、無職 5 名、JA 職員、地元民間企業、自営業他
平成 22	4 期生	10 : 12	33.1	自治体職員 3 名、農家 4 名、JA 職員 3 名、地元民間企業 6 人、自営業他 3 人

### 2-1-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム受講生

「能登里山里海マイスター」育成プログラムでは、45 歳以下の社会人を対象に受講生を受け入れました。「能登里山里海マイスター」育成プログラムの受講生の人数および通学圏は、表 16 の通りです（表 16）。受講生の平均年齢は、33.8 歳（聴講生、特別研究生を除く）です。

受講生を職業別にみると、自治体職員、地域おこし協力隊、JA 職員、農林漁業、地元企業の後継者が多い傾向にあります（表 17）。通学者は、「能登里山マイスター」養成プログラムの受講生と比べると、奥能登地域以外からの通学が増加していることが特徴です。1 期生の奥能登地域以外からの通学者は 4 割、2 期生では、6 割に上ります。

受講年齢の要件に達しない受講希望者に対しては聴講生として受け入れました。2 期生では、金沢市、東京都葛飾区、埼玉県所沢市、千葉県浦安市から珠洲市の能登学舎まで通学する受講生がいました。また、3 期生では UI ターン者が 7 名含まれました。

表 16 「能登里山里海マイスター」育成プログラムの受講生の人数および通学圏

入学年度	受講期	入学者	聴講生	特別研 究生	県内 奥能登	県内 奥能登 以外	県外 通学 者	奥能 登移 住者
平成 24	1 期生	40	1	0	19	13	2	6
平成 25	2 期生	42	4	1	6	19	7	10
平成 26	3 期生	30	5	2	7	10	5	-
平成 27	4 期生	28	0	0	15	10	3	10
平成 28	5 期生	30	0	0	15	12	3	10
平成 29	6 期生	28	0	0	16	10	2	12
合計		201	10	3	78	74	22	48

表 17 「能登里山里海マイスター」育成プログラム受講生の入学時の平均年齢および職業  
(聴講生・特別研究生を除く)

入学年度	受講期	男女比	平均年齢	職種
平成 24	1 期生	29:14	32.6 歳	農家、JA 職員、酒造関係、飲食店経営者、市会議員、報道関係者、会社員など
平成 25	2 期生	25:17	35.0 歳	自治体職員 6 名、医師 2 名、僧侶、会社員、自営業など
平成 26	3 期生	16:14	35.1 歳	自治体職員 4 名、地域づくり協力隊 1 名、会社員（宿泊業、物流など）、介護士、保育士、看護師など
平成 27	4 期生	19:9	34.4 歳	自治体職員 3 名、地域おこし協力隊 2 名、会社員（機械メーカー、機械工具、水産加工業など）、自営業、農業など
平成 28	5 期生	17:13	32.4 歳	介護福祉施設職員 2 名、大工、弁護士、講師（料理・英会話）、栄養士、主婦、銀行員、自治体職員など
平成 29	6 期生	16:12	33.5 歳	自治体職員、地域おこし協力隊、会社員・団体職員（営業職、事務職、製造業、コンサルタント、JICA、JA 職員、移住コーディネーター、建築士見習いなど）、自営業（デザイン事務所、整体師、林業会社）、クラフト作家、高校教諭、農業、主婦など

### 2-1-3. 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム受講生

能登里山里海 SDGs マイスタープログラム 2019 年度生では 1 名の高校生の受け入れを認め、また、年齢を 50 歳以下の社会人に対象を広げました。能登里山里海 SDGs マイスタープログラム受講生の人数および通勤圏は表 18 の通りです(表 18)。受講生の平均年齢は、2019 年度生が 33.6 歳、2020 年度生が 38.4 歳、2021 年度生が 35.0 歳と、年度によって大きく異なりました(表 19)。

また、受講生はそれぞれに専門性を持ち、ドローン測量や製塩業、和紙製造者の技術的な職種を持った方々が受講しました(表 19)。本プログラム修了後も情報共有や技術共有のネットワークづくりを活発に行っています。2019 年度生としては 13 名が修了、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う状況下ではありましたが、2020 年度生として 10 名、2021 年度生として 14 名がそれぞれ修了しました(2-2-3 参照)。

表 18 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム受講生の人数および通勤圏

入学年度	受講期	本科入 学者数	専 科 入 学者数	県内 奥能登	県内 奥能登 以外	県外 通学者	奥 能 登 移 住者	本 科 修 了 人数	専 科 修 了 人数
令和元	2019年度生	17	3	11	6	2	7	11	2
令和 2	2020年度生	12	0	6	3	3	5	10	0
令和 3	2021年度生	16	2	6	7	1	2	13	1
合計		45	5	23	16	6	14	34	3

表 19 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム受講生の入学時の平均年齢および職業

入学年度	受講期	男女比	平均年齢	職種
令和元	2019年度生	8:9	33.6 歳	地域おこし協力隊、自営業、自治体職員、アルバイト、製炭業、大学職員他
令和 2	2020年度生	3:9	38.4 歳	地域おこし協力隊、金融、建築業、福祉、自営業、大学生他
令和 3	2021年度生	8:10	35.0 歳	学校教員、法曹関係、会社役員、学生、自営業他

## 2-2. 修了生データ

### 2-2-1. 「能登里山マイスター」養成プログラム修了生

「能登里山マイスター」養成プログラムでは、第 1 期生 10 名、第 2 期生 15 名、第 3 期生 11 名、第 4 期生 24 名を輩出し、計 62 人が修了しました。(表 20)。

表 20 「能登里山マイスター」養成プログラム修了生データ

入学年度	受講期	修了人数 <sup>※1</sup>	男女比	聴講生	特別研究生	修了割合
平成 19	1 期	10	8 : 2	0	0	62.5%
平成 20	2 期	15	15 : 0	0	0	75.0%
平成 21	3 期	11	7 : 4	9	0	52.3%
平成 22	4 期	24	12 : 12	13	0	88.8%
合計		62	—	22	0	73.8%

※1：聴講生、特別研究生を除く。

入学時の奥能登地域への移住者数 16 人（珠洲市 10 人、輪島市 3 人、穴水町 1 人、能登町 2 人）のうち修了者は 14 人です（移住者の定義＝マイスター入学時から遡って一年内以降に移住した受講生）。また、修了生に占める奥能登在住率は 90.3%に上ります。高い奥能登地域の定着率と、能登活性化の中心的役割を担う若者人材を輩出できたことが伺えます。

修了生の主な職業は、公務員、JA 職員、食品製造業、宿泊業、サービス業、医療福祉業、小売業、飲食業などです。

#### 2-2-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム修了生

「能登里山里海マイスター」育成プログラムでは、第1期から第6期合計で124名の修了生を輩出しました。このうち、奥能登4市町移住者は28人を数えました（表21）。

修了生の主な職業は、JA 職員、酒造関係、自営業、市議員、主婦、報道関係者、会社員、僧侶、医師、公務員、NPO 職員、教員、地域おこし協力隊などです。

**表 21 「能登里山里海マイスター」育成プログラム修了生データ**

入学年度	受講期	修了人数	男女比	聴講生	特別研究生	修了割合
平成 24	1 期	22	13 : 9	—	—	53.4%
平成 25	2 期	23	14 : 9	2	2	54.7%
平成 26	3 期	21	14 : 7	0	3	80.0%
平成 27	4 期	16	12 : 4	0	0	57.1%
平成 28	5 期	21	11 : 10	0	0	70.0%
平成 29	6 期	18	11 : 7	0	0	64.2%
合計		124	—	2	5	61.6%

#### 2-2-3. 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム修了生

能登里山里海 SDGs マイスタープログラムは、2019 年度生、2020 年度生、2021 年度生の合計で本科 34 名、専科 3 名の修了生を輩出しました。

修了生の主な職業は、地域おこし協力隊、金融機関職員、民間企業役員、法曹関係者、教員、公務員などです。

**表 22 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム修了生データ**

入学年度	受講期	修了人数		男女比		修了割合	
		本科	専科	本科	専科	本科	専科
令和元	2019 年度生	11	2	5 : 6	1 : 1	64.0%	66.6%
令和 2	2020 年度生	10	0	8 : 1	-	75.0%	-
令和 3	2021 年度生	13	1	6 : 8	1 : 0	81.3%	50.0%
合計		34	3	-	-	68.9%	60.0%

### 3. 卒業課題研究の概要

ここでは、具体例において、「能登里山マイスター」養成プログラムの受講生を「里山」、「能登里山里海マイスター」育成プログラムの受講生を「里山里海」、能登里山里海 SDGs マイスタープログラムの受講生を「SDGs」と略して表記します。

#### 3-1. プログラム別の卒業課題研究の特徴

##### 3-1-1. 「能登里山マイスター」養成プログラム修了生の研究の特徴

「能登里山マイスター」養成プログラムの受講生は、その多くが奥能登地域からの通学者であることから、研究の対象地域も奥能登地域を選定した課題が多いのが特徴です。珠洲市を対象とした研究が22課題、能登町を対象とした研究が9課題、輪島市を対象とした研究が8課題と続いています。また奥能登地域全体の持続的発展の研究も7課題見られました。このほか、宝達志水町を対象地域に選定した研究も1課題ありました。

研究手法としてはヒアリング調査が圧倒的に多く見られましたが、統計資料を分析した上でアンケート調査を実施した研究も報告されています。また、科学的知見を得るため石川県立大学など大学研究者や専門家と連携した例も見られました（里山4）。

また、平成23（2011）年に「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたことから、4期生以降、「世界農業遺産」「付加価値」「生物多様性」「持続可能な社会」をキーワードに分析を試みた研究も見られます。

受講生自身が取り組む活動をより専門的に追究しようとする研究、あるいは地域の課題に対し提言・提案をしていくことで、持続可能な地域づくりに挑戦しようとする研究が多くあったことが特徴的でした。

##### 3-1-2. 「能登里山里海マイスター」育成プログラム修了生の研究の特徴

「能登里山里海マイスター」育成プログラム受講生の研究の特徴としては、受講生自身の生業を具体的に発展させていく手法、プラン設計を検討した研究が多い点が挙げられます。これは、「能登里山マイスター」養成プログラムの修了生の活躍が広く認知され、珠洲市、奥能登地域のみならず、能登地域から農業者、味噌製造業、酒造、製糸業を営む受講生が増加したことが背景にあると考えられます。研究対象地域としては、珠洲市を対象とした研究が23課題と多く、能登地域全体を対象とした研究が16課題、奥能登地域全体を対象とした研究が7課題、能登町を対象にした研究が7課題報告されました。また、七尾市を対象にした研究が6課題、能登島を対象にした研究が2課題、かほく市を対象にした研究が1課題あり、奥能登地域以外を対象にした研究も見られました。

研究手法としては、ヒアリング調査やアンケート調査が多く見られました。このほか、先進事例調査実習で視察した事例を分析して卒業課題研究に活かした例もあり、受講生ごとに創意工夫して研究に取り組んだことが伺えます。

また、世界農業遺産である「能登の里山里海」を主対象として、地域の持続的発展を検討した研究も2課題報告されています（里山里海2）。

なお、SDGsを強く意識した研究を評価するため、「能登SDGsラボ」と共催し、6期生修了時から「マイスターSDGs奨励賞」を創設しました。マイスター卒業課題研究成果報告会で発表した受講生の中から、下記の表23にある通り、SDGsの趣旨に沿った活動をし、かつ今後の活躍が見込まれる2名に対して本賞を授与しました（表23）。

表 23 「マイスターSDGs 奨励賞」認定基準

項 目	内 容
ビジョン	SDGsの達成につながる、持続可能な社会の実現に向けた取り組みや事業のビジョン、取り組むべき課題や目的を明確にしているか。
協働性・包摂性	多様なステークホルダー（人や団体）と協働しているか。「誰ひとり取り残さない」の理念に沿っているか。
統合性	環境、経済、社会の視点を複数組み入れて、その相互関連性・相乗効果を重視しているか。
エンパワーメント	持続可能な社会の実現に向けて、課題解決のための学び合いや実践を促すことで、個人の価値観・態度・行動の変容や地域力の向上につながっているか。
発展性	活動が継続的に行われ、かつ発展する見込みがあり、他の活動に波及することが期待されるか。
能登らしさ	能登の地域資源や自然、文化、社会などの特性を活かした、他地域との差別化がされた取り組みとなっているか。

受賞した研究課題名は次の通り（いずれも里山里海6）。

- ・ 「石川から発信する「能登の染め色物語と加賀ゆびぬき」の出会い」
- ・ 「里山を活かした過疎地域の活性—30年後の上黒丸地区発展の可能性を探る—」

### 3-1-3. 「能登里山里海SDGsマイスター」プログラム

能登里山里海SDGsマイスタープログラム受講生の研究の特徴としては、SDGsの趣旨も踏まえつつ、地域振興の視点からツーリズムに目を向けた研究が多く報告されました。

例えば、SDGsでは、目標の8、12、14でツーリズムがターゲットとして取り挙げられている点に着目し、農業遺産ツーリズムによるSDGs貢献度を“見える化”することに挑んだ研究、マリーンアクティビティを通じてゴールの3、11、14、17の達成を目指す研究などが報告されました。

有形・無形文化遺産や里山里海の自然環境に配慮しながら、能登地域における雇用や収入の創出を意識することで、持続可能な地域社会づくりを果たそうとする研究が多かった点が特徴です。

また、SDGs の目標を捉えつつ世界農業遺産の動的保全に資する活動を検討する研究も報告されています。SDGs への意識調査の中から SDGs の課題を見出す研究は、今後の地域の持続的発展を考える上でも様々な示唆を含むことが想定されます。さらに受講生や修了生同士のネットワークを活用して研究に取り組んだ例が多く見られた点も特徴と言えます。

なお、「マイスターSDGs 奨励賞」の授与については、引き続き実施しました。各年度の授与対象課題は次のとおりです。

- ・ 「『能登の里山里海』の魅力を持続可能な地域づくりに活かすー志賀町観光協会の新たな組織体制づくり」(2019 年度生)
- ・ 「奥能登カヤック構想ーマリンスポーツアクティビティを生業にした定住を実現するー」(2019 年度生)
- ・ 「能登ジン開発への取組」(2020 年度生)
- ・ 「高校生と大人が交わる「まちの学び舎」の提案と実践」(2020 年度生)
- ・ 「ママさんの能力の活かし方ー誰もが働きやすい職場へー」(2021 年度生)
- ・ 「生業と結びついた民家の現代的活用方策の検討ー珠洲市での民家調査を通じてー」(2021 年度生)

### 3-2. 卒業課題研究の特徴

#### 3-2-1. 生物文化多様性に関する研究

里山里海の持続可能な利活用を考えるためには、自然との関わり方が大きな課題となっています。受講生の関心の中でも、森林と人のかかわり方から見えてくる現状や将来に向けての可能性などについて着眼した研究が多く見られました。例えば、生態系サービスの概念とその利用・保全について、生物多様性が人間生活に与える利益(生態系サービス)について、供給サービス(食料、水、薬など)や文化的サービス(儀礼、信仰、衣食住文化、ツーリズムなど)についてなど、各側面からの研究が報告されています。

生物文化多様性がもたらす生態系サービスはその価値が評価されにくいものの、地域活性化の面でも、人の健康や幸福の面でも、極めて重要なものであることについて深い理解が得られているようです。また、里山の恵みを生態系サービスの視点から新しく捉え直し、固有の生き物(地域独特の野菜や産物)を活かした地域おこしにつなげる提案もみられました。

このほか、日本の農山漁村における里山里海資源の管理とその担い手の在り方に着目する研究もみられました。能登は人と自然が共生する場所でもあることから、農業・漁業を中心とした人間の営みや文化を支えてきた点を評価した研究、また生物多様性に及ぼす効果について自身の担うべき役割を考察した研究も、数多く報告されています。





図 7 能登の里山里海と生物多様性について (里山里海 6)



図 8 和紙がつなげる人と森との関係についての研究 (SDGs2019)



図 9 伝統農法が生物多様性に及ぼす影響について (里山里海 3)

### 3-2-2. 世界農業遺産「能登の里山里海」の現状に関する研究

世界農業遺産は、農業の近代化が進む中で失われつつある伝統農業や農法、生物多様性が守られた土地利用、景観、農耕文化や芸能、それらに関わる人々などが一つの複合的な「農業システム」を構成している地域を、国際連合食糧農業機関 (FAO) が認定する制度であり、「世界重要農業資産システム」とも言われています。世界農業遺産では、農業システムを一体的に維持し、次世代へ継承していく「動的保全」を目的としています。これまでに世界で 62 地域、日本では平成 23 (2011) 年に初めて石川県能登地域と新潟県佐渡地域が認定されて以降、11 地域が認定されています。「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたことを機に、世界農業遺産であることを活かした地域づくりが進められています。

しかしながら、農業と生物多様性のかかわりについては、身近に実感する機会は多くありません。こうした現状を踏まえ、「マイスタープログラム」では講義やフードワークを通じてモニタリング（現状評価）の必要性について折に触れて言及してきました。その結果、自然と共生し環境に優しい農林業の持続的発展をテーマにした研究や、世界農業遺産「能登の里山里海」の現状と将来性の学際的評価を行う研究も多く報告されました。

例えば、世界農業遺産「能登の里山里海」の個別の構成要素に着眼した研究として、奥能登の揚げ浜式製塩の本質的意味を追究した課題（SDGs2019）、能登の里山里海を支えてきた祭りの現状と課題（里山里海5他）、地域の伝統的な生業として志賀町のころ柿の風景について論じた研究（里山里海6）などがあります。また地域のローカルな知識の有用性に着目し、地域住民への聞き書きを行った研究（里山里海5、SDGs2019）も報告されています。

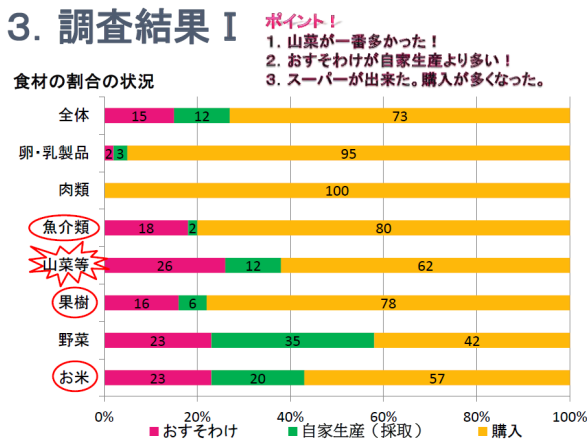


図 10 地域の持続可能性の指標として「お裾分け」に着目した研究（里山里海3）

#### 柿を干す場「干し場」



図 11 地域の生業を風景の視点から分析した研究（SDGs2019）

### 3-2-3. SDGs と能登に関する研究

SDGs は平成 27 (2015) 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟 193 国が 2030 年までの 15 年間で達成する目標を掲げたものです。SDGs では「誰一人取り残さない」という理念の元に 17 のゴールと 169 のターゲットを定め、持続可能な世界を実現することを目指しています。平成 30 (2018) 年に珠洲市が SDGs 未来都市に認定されたことをきっかけに、地域課題に対し積極的に SDGs の観点から解決策を導き出そうとする研究が報告されるようになりました。

特に能登里山里海 SDGs マイスタープログラムの受講生は、SDGs の目標 14「海の豊かさを守ろう」や、目標 15「陸の豊かさを守ろう」といった、環境問題に対する適応や改善への関心が高い傾向にありました。SDGs の目標を達成するため地球規模の目標を能登地域で最適化していくこと、また能登から世界に向けて持続可能なライフスタイルや仕組みを発信していくこと、日々変わっていく社会の仕組み、価値観、テクノロジーに敏感になりながら、能登での SDGs を考えアクションし続けることを目指した研究が報告されています。

例えば、珠洲市を調査の対象地域として、里山里海の重要性と現状の問題点を洗い出し、移住者、特に若い世代がどのように集落(地域)と関わっていくことが望ましいのか SDGs の観点から取り組み、住民に対する聞き取り調査を行いまとめた研究(SDGs2019)は、特徴的な研究として挙げられます。



図 12 ゴール 15「陸の豊かさも守ろう」に着眼し、奥能登での里海体験を企画した研究 (SDGs2019)

1.背景と目的 2.先行事例の検討 3.教科書の作成 4.今後の展望 5.おわりに

### 3-2. 日置地区での合意形成

- 11/5 日置地区区長会長への趣旨説明
- 11/22 区長説明会の開催
  - ・参加者：区長6名(代理含む)、公民館長、公民館主事、移住者4名 計12名
  - ・趣旨説明と協力依頼し、快諾を得た。
  - ・掲載項目・調査項目について意見交換
- 日置地区新年互例会や各集落の新年会等役員や住民の集まる場を利用
  - ・1/4新年互例会、1/12 横山新年会、1/26 川浦新年会
  - ・趣旨説明し、聞き取り調査などの協力を仰いだ。

図 13 「誰ひとり取り残さない」ための地域共創社会の実現に取り組んだ研究(SDGs2019)

### 3-2-4. 新たな価値の創造、情報発信に関する研究

能登地域の里山里海の資源を可視化し、新たな価値として創造し、地域内、地域外の人々との交流に向けた情報の共有・発信方法を分析した研究もみられました。

例えば、能登地域の伝統食、技術などの地域資源に着目し、付加価値を高める研究に取り組んだ事例として、能登地域の発酵食品である「いしる」の残渣を活用した新たな可能性について分析を試みた研究があります（里山里海4）。

また、地域の棚田米が持つストーリーの重要性に着目し、「能登棚田米のブランド化と棚田保全活動」を追究した研究（里山2）や、能登の一次産品に付加価値をつけて差別化を図り、ニュービジネスの可能性を検討したものとして、里山保全によるカーボンマイナスの実現を試みた研究があります（里山2）。いずれも、受講生が、地域スケールのブランド化の視点を持ちつつ、各自の生業、あるいは活動を的確に位置づけている点で評価できる研究となっています。

能登の未利用キノコについて

## タマゴタケ

<オロンジュ>  
・時期:夏~秋

確認日	場所	数
7/18	保全林	1
9/13	春蘭の里	10以上

人気の食材ですが、価格が高いためレストランではメニューに取り入れにくい。

イタリアンではサラダ感覚で生で塩とオリーブオイルで食べます。



図 14 新たな価値の発見・創造による地域活性化に関する研究（里山里海1）

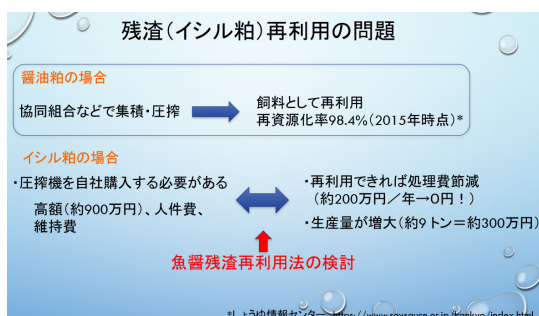


図 15 地域資源イシルの再利用に着眼した研究（里山里海4）

### 3-2-5. 地域活性化へ向けた保全・活用方策に関する研究

能登地域の地域活性化について、持続可能な未来思考から具体的な道筋を描いた研究が報告されています。

宝達志水町におけるストーリーを重視した町民参加型の交流事業「オムライスの郷プロジェクト」を企画した研究では、行政の立場から「オムライスの町」の望ましい形を考察しています（里山3）。

また、珠洲市で平成29（2017）年に開催された奥能登国際芸術祭を対象事例として、芸術祭の開催が奥能登地域にもたらす可能性・課題、地域との関係づくりについて、「地域の価値」を分析軸に検討した研究があります（里山里海5）。奥能登国際芸術祭をきっかけに、奥能登地域の過疎化を食い止めるために若い世代が何を考え、行動していくべきかについて、伝統的な文化と美術との関わりを切り口にしており、次回の第2回奥能登国際芸術祭を見据えた報告にもなりました。

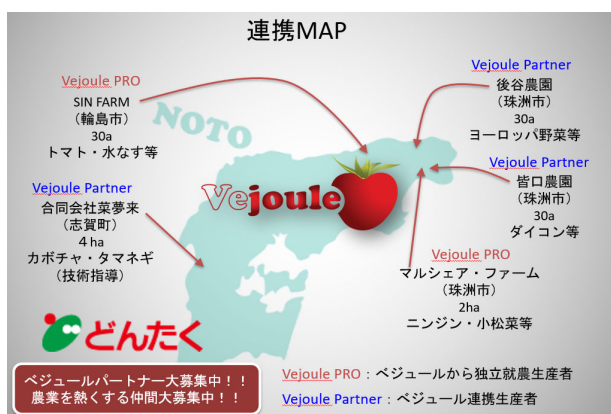


図 16 若手農業者の実態把握と、農業振興の取り組みについての研究（里山里海3）

### サイクリングツアーの企画

→地域資源をGISを活用して地図上におとしこむ



時間：約3時間30分（9:00～12:30 / 13:30～17:00）  
 全長：約20km  
 人数：1～4名（中学生以上・健康な方）  
 価格：4,000円（お試し価格：自転車レンタル料・保険料・体験料・消費税込）

図 17 里山の暮らしを活かしたツーリズムの実践についての研究（里山里海4）

#### 4. 卒業課題研究のテーマ別題目一覧

##### 4-1. 環境・環境保全

- ・ 奥能登の稲作農業の変化は、水田の生物多様性にどのような影響を及ぼすのか？－大型ゲンゴロウ類の調査結果から－（里山2）
- ・ 輪島市の水田環境における生物多様性の保全と水稲栽培方法の検討（里山4）
- ・ +（プラス）DRONE 新たなステージへー地域の魅力発信！と里山里海保全を空から貢献する環境づくり（SDGs2019）
- ・ ランプの宿における水環境の現状と未来（SDGs2020）
- ・ 日本における海岸ごみ処分の現状－能登の海岸から海の持続可能性を考える－（SDGs2021）
- ・ スズ山倶楽部 一年の歩み（SDGs2021 専科）

##### 4-2. 観光・交流

- ・ 日置地区で人・自然・文化をつなぐエコツアー作り（里山4）
- ・ 珠洲市における地域資源を活用したツーリズムの可能性（里山4）
- ・ 金蔵における宿泊施設の構築に向けて（里山4）
- ・ 安心につながる「暮らし方」の学び創出の場－リトリートヴィレッジ@金沢大学角間キャンパス－（里山里海1）
- ・ レンタサイクルの活用による、のと鉄道の観光・交流利用促進の可能性（里山里海1）
- ・ 週末農業モデルで奥能登の棚田を守り、交流を生み出す（里山里海1）
- ・ 珠洲市における酒米生育と地域活性（里山里海2）
- ・ ムスリムの視点から見た能登半島の魅力－「ハラルな里山里海ツーリズム」を目指して－（里山里海2・聴講生）
- ・ 夫婦ふたりで小さな6次産業化－地元の多様な食資源の活用と宿泊プログラムの可能性－（里山里海2）
- ・ 「サードプレイス」としての能登半島（里山里海2・聴講生）
- ・ リピーターが増える珠洲観光を目指して（里山里海3）
- ・ 能登におけるムスリムの旅行の現状と将来（里山里海3）
- ・ 能登の酒とインバウンド・ツーリズム（里山里海3）
- ・ 珠洲の新たな観光資源としての冬季サーフィンの可能性－競技大会の開催をめざして－（里山里海3）
- ・ 能登半島レストラン構想（里山里海3）
- ・ 老舗酒蔵から地域の活気をつくる－鶴野酒造ライトアップ計画－（里山里海3）
- ・ ふるさと鶴川のツーリズム－我がふるさとを日本と世界のふるさとへ（里山里海3・聴講生）
- ・ 二地域居住のための能登型クラインガルデン開設に向けて（里山里海4）

- ・ 里山里海の暮らしを生かしたサイクリングツアーの可能性（里山里海 4）
- ・ 珠洲にコワーキングスペースを作るーあったらいいなをカタチにー（里山里海 4）
- ・ 宿泊施設を活用した地域デザインによる持続可能なまちづくりの提案ーコーディネーターモデルとコーディネーターコミュニティの可能性を検証ー（里山里海 6）
- ・ 奥能登におけるインバウンドを見据えたロケ地誘致の可能性（里山里海 6）
- ・ 「里人」を通した中島町の魅力体験プログラムづくりに向けて（里山里海 6）
- ・ 今だからこそ始める地域づくり・集落存続の可能性（里山里海 6）
- ・ つながる体験 民旅（みんなたび）のセカイーめざせ！未来の民旅プランナー（里山里海 6）
- ・ マイスターつながりの人たちのための情報プラットフォーム構築の提案ー能登里山里海 Meister Tube 構想（SDGs2019）
- ・ 農業遺産ツーリズムによる SDGs 貢献度の見える化ー奥能登地域の「いしかわ里山振興ファンド」事業を例にー（SDGs2019）
- ・ 地域と人をつなぐ中間支援ー持続可能な GIAHS 社会を目指してー（SDGs2019）
- ・ 自立した地域のモデルケースを作る LOCAL INNOVATION～里山里海の地域資源を活用し、行政に頼らない自立した七尾市中島町を育てる～（SDGs2020）
- ・ 珠洲の観光開発における移住者の関わり方ー副業ローカルガイドプラットフォーム構築ー（SDGs2021）

#### 4-3. 子育て・教育

- ・ 穴水町の学校給食における地産地消の取り組み（里山 1）
- ・ 能登半島の里山里海資源を活用した教育産業の創出（里山 2）
- ・ 土地に根ざした学びの場づくりーまるやま組の活動を通して（里山 4）
- ・ 珠洲市における域学連携の可能性ー能登学舎の活用提案ー（里山里海 1）
- ・ 能登における綿花栽培の可能性ーオーガニックコットンを育てようー（里山里海 1）
- ・ 能登の自然を子どもと過ごすプログラムー里山里海を活かした「森のようちえん」の提案ー（里山里海 2）
- ・ 読み聞かせで伝えたい里山里海の魅力と学び（里山里海 2）
- ・ オーガニック農法コットンの国内普及について（里山里海 2）
- ・ 里海に関する基礎調査 in 珠洲ー里海と人をつなぐガイドブックの制作に向けてー（里山里海 2）
- ・ 「観察」からの環境教育ー向井康夫氏の方法に学ぶー（里山里海 3）
- ・ 能登の自然と文化の中で育む子どもの感性（里山里海 3）
- ・ はくさんつるぎ畑の遊び場（里山里海 3・特別研究生）
- ・ 奥能登と金沢を繋ぐーつながり方を考えるワークショップの提案ー（里山里海 4）
- ・ アロマセラピストの学びの場としての能登（里山里海 4）

- ・ 地域における公営塾「まちなか鳳雛塾」の可能性―地域と子どもたちを繋ぐデイキャンプの実施―（里山里海 5）
- ・ 多文化共生に関する絵本制作（里山里海 5）
- ・ 里山農業と国際交流（里山里海 5）
- ・ 能登学舎の持続可能性について―子育て移住のための拠点としての能登学舎の活用―（里山里海 6）
- ・ ほんとうの学びをめざして（里山里海 6）
- ・ 持続可能なまちづくりに向けた民間による教育機会創出の提案と実践（SDGs2020）
- ・ 地域との繋がりを活かした学校間交流の提案（SDGs2021）

#### 4-4. 工芸・アート

- ・ 地域に根ざす手仕事の工夫による価値創出―穴水町諸橋地区における「能登草木の染め」の商品化―（里山 3）
- ・ のとじま手まつり―“能登っていいな”を交換する場―（里山 4）
- ・ 珠洲市における音楽を用いた交流機会の促進（里山 4）
- ・ 白山麓で農生活の木工家が”育む”暮らし（里山 4）
- ・ 海女のフンドシ刺し子ワンピースの製作とアカニシ貝の活用法（里山里海 2）
- ・ 郷土音楽を活用したレコード製作の可能性（里山里海 4）
- ・ 珠洲から生まれる愛着の持てる木工品の製作（里山里海 5）
- ・ 奥能登国際芸術祭と能登 GIAHS をつなぐ―3年後の芸術祭に向けて―（里山里海 5）
- ・ 石川から発信する「能登の染め色物語と加賀ゆびぬき」の出会い（里山里海 6）
- ・ 能登の箸をつくる（SDGs2021）

#### 4-5. 水産業

- ・ 奥能登岩がき養殖業の産地展開に向けて（里山 2）

#### 4-6. 製造・販売

- ・ 能登産の『赤』を求めて―製菓材料としてのピーツ栽培と加工による農商工連携―（里山 4）
- ・ 昔ながらのしょうゆづくり―もろみづくりの再生から見える地域とのかかわり―（里山 4）
- ・ 能登の酒を伝え、過疎地で生き残る（里山里海 1）
- ・ 能登みそを次世代へ・・・（里山里海 1）
- ・ 規格外野菜を利用した商品作り（里山里海 1）
- ・ 和紙の魅力を伝える紙店の試み（里山里海 3）
- ・ 能登の食材を使用した精進カップ麺作成（里山里海 4）



- ・ 塩田村における生産効率改善に向けた取り組み（里山里海4）
- ・ 魚醤残渣の活用の可能性（里山里海4）
- ・ 能登の木を使用した下駄作りワークショップ構想（里山里海4）
- ・ イカをいかに活かすのか？（里山里海5）
- ・ 能登キャンドル作りの可能性を探る－能登での起業に向けて－（里山里海6）
- ・ 能登に根付いた紙すき工房を目指して（SDGs2019）
- ・ 「能登の里山里海」と「ワイン」を魅了したワインカンパニー（SDGs2020）
- ・ 能登ジン開発への取組（SDGs2020）

#### 4-7. 地域資源

- ・ 能登産絹製品による経営の可能性について（里山1）
- ・ 能登町柳田地区におけるキノコの利用について（里山1）
- ・ 能登におけるサカキ(葉っぱ)ビジネスの提案（里山1）
- ・ 奥能登在来野菜を活用した地域活性化のための基礎調査（里山2）
- ・ 大学生による地域再生の取り組みと課題－輪島市三井地区を事例として－
- ・ 珠洲市におけるマツタケ山の整備状況の現状分析－未来にマツタケを残すために（里山4）
- ・ 能登の里山を守るマタギ生活を目指して－獣害対策と駆除－（里山里海1）
- ・ 能登の里山元気プロジェクト－企業のCSR活動を通じた未利用間伐材の利用促進－（里山里海1）
- ・ 能登＝農都ならでの「山活用 葉っぱ・木の実・木材廃棄物 ビジネス」で里山を活性化－ポータブル酵素足浴の開発プラン－（里山里海1）
- ・ 西洋料理で使える奥能登未利用キノコの活用（里山里海1）
- ・ 木製サーフボード自作教室とクラウドファンディング活動による木材の地産地消推進を目指して（里山里海2）
- ・ 「能登ふぐ」を活用した地域活性化（里山里海2）
- ・ 能登のお宝・在来作物種の保全継承につなげる実践・普及活動（里山里海2）
- ・ 「九十九湾」周辺の海の利用と生活文化（里山里海2）
- ・ キイチゴの活用と里山を楽しむことを考える（里山里海2）
- ・ あぜ豆栽培と醤油作りから得られた学び－あぜ豆のある風景の価値を考える－（里山里海3）
- ・ 奥能登の食材の可能性を探る－奥能登の食のチシキとレシピ－（里山里海5）
- ・ 能登の食を”財産”として残すための一考察（里山里海5）
- ・ Identity of Agehama Style Salt Making Method（SDGs2019）
- ・ アロマセラピーで用いる植物油の抽出－能登の植物資源の新たな活用を考える（SDGs2021）

#### 4-8. 地域振興プラン

- ・ 農家民宿および農家レストランを中心とした地域振興—能登にふさわしい 6 次産業化を求めて—（里山 1）
- ・ 奥能登農家ネットワーク（ONN）の形成（里山 1）
- ・ 空き家を利活用した定住化促進事業の可能性—過疎地域における持続可能な空き家施策—（里山 1）
- ・ 離島振興の可能性について（里山 1）
- ・ 珠洲市吉ヶ池地区で集落営農に取り組むために（里山 2）
- ・ 珠洲市における中山間地域の現状と課題（里山 2）
- ・ 山菜の産地化計画-輪島市での取り組み 「山菜王国能登」を目指し-（里山 2）
- ・ 「のとキリシマツツジ」で町の活性化を！（里山 3）
- ・ 地域通貨導入による能登町の活性化について—木質バイオマスと住民を地域通貨で結び、循環型社会の実現を目指す—（里山 3）
- ・ 輪島市における鳥獣被害の現状と今後の対策（里山 3）
- ・ 空き家を利活用した移住・交流促進モデルの構築（里山 3）
- ・ 青年海外協力隊帰国者を活かした地域活性化（里山 3）
- ・ 地域資源を活用した都市農村交流—珠洲市若山町洲巻集落を事例として—（里山 3）
- ・ 地域活性化における行政の望ましいあり方—宝達志水町「オムライスの郷プロジェクト」を事例として—（里山 3）
- ・ イカの町小木・捕ることからイカすことへの挑戦（里山 4）
- ・ 珠洲・日置地区の未来づくり（里山 4）
- ・ 珠洲市日置地区の活性化状況と課題—地球温暖化より恐ろしい過疎高齢化の実情（里山里海 1）
- ・ 耕作放棄地の解消を目指して（里山里海 1）
- ・ 石川県および奥能登への移住者を増やすために（里山里海 1）
- ・ 農業に縁の無かった都市民が、能登の耕作放棄地問題について何か出来ることはあるのか？（里山里海 1）
- ・ 女性グループの力を地域に活かす—能登町小木での活動を通して—（里山里海 2）
- ・ 「腑に落ちる集落点検」によるイノシシ被害対策推進の取り組みについて—（里山里海 2）
- ・ 羽咋市における自然栽培の現状と展望—仕事を創出し、移住・定住を促進するための政策提言—（里山里海 3）
- ・ 珠洲市における住民の地区間移動と「I（アイ）ターン」者の移入先について—居住地選択の視点から—（里山里海 3）
- ・ 地理情報を活用した広域的な鳥獣害対策（里山里海 3・聴講生）

- ・ 共創の場を通じた ICT による獣害対策の試み（里山里海 4）
- ・ 「能登島地区コミュニティーセンター」は地域の活性化に貢献できるか？－移住者の視点からの提案－（里山里海 4）
- ・ 能登で取り組むための課題探し－寄り道パーキング寺家を通して－（里山里海 5）
- ・ 保全活動の課題解決のアイデアを地域活動と繋げるために必要な役割（里山里海 6）
- ・ 建築関係者から伝えたい空き家／古い建物の価値－事例紹介と体験をもとに－（里山里海 6）
- ・ 里山を活かした過疎地域の活性－30 年後の上黒丸地区発展の可能性を探る－（里山里海 6）
- ・ 能登の空き家所有者のための相談窓口事業計画－どの家もとりのこさない－（SDGs2019・専科）
- ・ 奥能登カヤック構想－マリンスポーツアクティビティを生業にした定住を実現する－（SDGs2019）
- ・ 「能登の里山里海」の魅力を持続可能な地域づくりに活かす－志賀町観光協会の新たな組織体制づくり（SDGs2019）
- ・ 珠洲市版「集落の教科書」づくり－日置地区を対象に－（SDGs2019）
- ・ 能登の里山で豊かな暮らしを創り出す－耕作放棄地を利用した取り組み－（SDGs2019）
- ・ 若者移住者から見た珠洲の魅力とは～移住者の定着、更なる移住促進に向けて～（SDGs2020）
- ・ 門前町の継続的な現状維持のために（SDGs2020）
- ・ 空き家から考える地域の持続性（SDGs2020）
- ・ 能登の空き家対策の提言－空き家バンクの空き家の実際の購入と最近の法改正から－（SDGs2020）
- ・ 里山里海マテリアルの独自性を生かしたブランドデザインの構築（SDGs2021）
- ・ 能登地域における PFI 事業導入の検討（SDGs2021）
- ・ UI ターン希望者向け就職／創業メディア「ノトズカン」の設立（SDGs2021）
- ・ 能登での事業継続を継続させる秘訣とは何か（SDGs2021）
- ・ ママさんの能力の活かし方－誰もが働きやすい職場へ－（SDGs2021）
- ・ 生業と結びついた民家の現代的活用方策の検討－珠洲市での民家調査を通じて－（SDGs2021）

#### 4－9. 地域文化

- ・ 自然の恵みを利用する知恵と文化を受け継ぐ－「暮らしと自然の繋がり」の再発見－（里山 4）
- ・ 店舗空きスペースを利用した 地域価値共有の試み－能登への思いが通いあう場をめざして－（里山 4）
- ・ 戦後に能登杜氏が辿って来た道－食糧難の時代から今後の自分へと繋がる酒造り－

(里山4)

- ・ 珠洲市の勝東庵、その文化価値の考察 (里山里海1)
- ・ 里山里海をフィールドとする高屋町の遊び文化 (里山里海1)
- ・ 春日野祭礼における獅子舞の課題 (里山里海2)
- ・ 奥能登の神話・伝説—特に「国引き神話」と須須神社について— (里山里海2)
- ・ のと民家の価値について—能登町五十里地区民家調査より— (里山里海2)
- ・ 古民家を守り、能登の風景を守る (里山里海2・聴講生)
- ・ 「おすそわけ」から見えた集落のすがた (里山里海3)
- ・ 奥能登の城郭遺産によるまちづくりの可能性—山城の整備と活用— (里山里海4)
- ・ 奥能登の暮らし方をめぐって内浦町を対象とする神社調査 (里山里海4)
- ・ 珠洲じじばば 知恵の数珠つなぎ (里山里海5)
- ・ 珠洲の祭りに込められた人々の思いを知る (里山里海5)
- ・ 松波人形キリコ祭りを通して能登の祭りを考える—特色を活かした魅力拡大— (里山里海5)
- ・ 輪島市門前町二又川青年団の取組みを世界へ (里山里海5)
- ・ 目の前の一皿から風景を感じる—ころ柿のお皿の場合 (志賀町・中能登町・羽咋市)— (里山里海6)
- ・ 珠洲の地域歴史資源を考える—「いしかわ歴史遺産」登録を目指して— (里山里海6)
- ・ 粟津秋季祭礼 神輿渡御—継続するために巻き込む— (SDGs2021)

4-10. 福祉・健康

- ・ 里山資源を活用したヘルスツーリズム—ノルディックウォーキングを活用して— (里山4)
- ・ ヘルスツーリズムにつながる地域資源の発掘と活用実践 (里山里海1)
- ・ 里山里海資源を活用したメンタルヘルス・プログラムの事業化 (里山里海1)
- ・ 奥能登の長寿率と食生活調査 (里山里海2)
- ・ 布ぞうりの健康効果に着目した試作品作りとその活用法の提案 (里山里海3)
- ・ ウルシ染め事業による障害者の働ける場の提供と漆の情報発信 (里山里海4)
- ・ 介護施設における園芸福祉活動の実現に向けて
- ・ 地域に暮らす一人一人が活躍できるまちづくり—企業の障害者受け入れを目指して— (里山里海5)
- ・ 能登で行う腸内フローラ改善のための食養 (里山里海6)

4-11. 林業

- ・ 里山保全によるカーボンマイナスの実現—里山ビジネスを通じた木炭の環境付加価値化の試み— (里山2)

- ・ 能登での里山利活用によるビジネスの構築-里山資源利用による里山保全活動-（里山2）
- ・ “Wood Job で Good Job”-木を利用した地域おこし協力隊の取り組み（里山里海2）
- ・ 薪づくりによる「里山レスキュー」-多様な参加者による里山林の保全と資源活用-（里山里海3）
- ・ 製材を核とした里山ケアの可能性（里山里海4）
- ・ 奥能登の里山と繋がる住まい-地域工務店の役割-（里山里海5）
- ・ 比較法の観点で見る日本林業再興のための考察-能登から変える日本の林業-（里山里海5）
- ・ 林業分野における若手人材交流プログラムの開発-全国の地方創生に学ぶ-（里山里海5）
- ・ 収益を高める！奥能登広葉樹資源の流通構築-地域資源を活用した森林経営モデルを目指して-（SDGs2019）

#### 4-12. 農業振興

- ・ 原木生椎茸の生産・販売の向上に向けて（里山2）
- ・ ミニトマトの加工による農業振興（里山2）
- ・ 能登榊（サカキ）産地育成に向けた取組み（里山2）
- ・ 珠洲ブロッコリーの産地化に向けて（里山2）
- ・ 海洋深層水農産物のブランド化による地域活性化（里山2）
- ・ 水稻栽培における里海資源の活用-能登海洋深層水米のブランド化-（里山3）
- ・ 山菜の栽培とこれからの取組み-山菜の産地化に向けて-（里山4）
- ・ 誰でも出来る直売所-低コスト・直接対面販売スペースの提供-（里山4）
- ・ 愛する能登大納言小豆（里山4）
- ・ オーガニック栽培ブランド「能登のやさしさ」の構築に向けて（里山里海5）
- ・ 能登らしい直売所・ファーマーズマーケットを探る（SDGs2021）

#### 4-13. 新規就農・就業・起業

- ・ 輪島市門前町の中山間地域における里山資源を活用した就農計画（里山1）
- ・ 新規参入者の農家への道筋と地域貢献-サツマイモ農家への就農計画-（里山2）
- ・ 珠洲産和からしを使った加工ビジネス（里山3）
- ・ 循環型農業としての平飼い養鶏の可能性
- ・ ヤギ飼育を活用した農家民宿開業計画（里山3）
- ・ 小さなおうちの大作戦-食べもの店経営のための基礎づくり-（里山4）
- ・ 水稻の栽培方法と腐敗実験の因果関係についての検討（里山4）
- ・ 能登柳田で本格的ワイン造りを目指して（里山4）

- ・ 原木シイタケ栽培を生業とする（里山4）
- ・ ヤングコーンの利用法について―未利用農産物と向き合う―（里山里海1）
- ・ 自然の循環を活かしたオーガニック農ライフを生業に（里山里海1）
- ・ 土壌診断に基づく土づくりと大苗疎植による水稻栽培の実践―里山からの米1トン穫りを目指して―（里山里海2）
- ・ 和服仕立事業による「衣」の循環への挑戦（里山里海2）
- ・ 耕作放棄地を利用して在来作物とそのタネを守る『のたのお宝』プロジェクト（里山里海2）
- ・ 障がい者と農業―自身のこれからを見据えて―（里山里海3）
- ・ 能登島就農顛末記（里山里海2）
- ・ 新規就農者の自立構想―地域リーダーをめざして―（里山里海3）
- ・ 能登でアサ（麻）の栽培を目指す―伝統的用法と新しい展開（里山里海3）
- ・ 過疎地域商店の再生―しんべえ商店―（里山里海5）
- ・ 半島半都の暮らしの架け橋―梅林との出逢いから蓄熱式ストーブペチカの制作―（里山里海5）
- ・ 能登の就域構想―地域企業が大学生の新卒採用を増やすための展望（里山里海6）
- ・ 能登の商いを受け継ぐ「継業」への提案（里山里海6）
- ・ 日本一の茶の湯炭を目指す炭やき職人求人プロジェクト―炭やきしたい人、この指と～まれ♪―（SDGs2019 専科）

#### 4-14. 農業経営

- ・ 企業農業参入における課題（里山1）
- ・ 我が社の農業経営実績と今後の展開について―ベジュール・アグリ・ソリューション―（里山里海3）
- ・ 環境保全型農業の土作り指標開発～土の中を見える化し就農1年目から生産性を高める―（里山里海3）
- ・ カボチャ栽培における新しい品種と作型の導入―自らの「農力」をみつける―（里山里海3）

## 5. 修了後の活動

### 5-1. 修了生への支援体制

#### 5-1-1. 就農支援

就農希望者や起業希望者に対する農地の斡旋や情報提供など、具体的な支援体制を確立するため、関係自治体やJA、地域社会との連携を密にしています。

「能登里山マイスター」養成プログラムの修了時に就農計画を提出し、修了した者には、就農後も共同研究の参加や情報提供などを通じたフォローアップが受けられる体制を整えました。就農計画は行政の就農支援策と連動しており、審査のうえ「認定就農者」の石川県知事認定を受ければ、県農業信用基金協会の保証による無担保・無保証の就農支援資金が受けられます。

能登里山マイスター（4期）の修了生は、宿泊施設の支配人から、農業法人での研修後、農業法人の栽培担当を経て出身集落である珠洲市で就農しています。現在、棚田地域の活性化事業の事務局長と農業を兼務しながら、将来の目標として地元珠洲市の棚田での集落営農を掲げて農業に取り組んでいます。

#### 5-1-2. 創業支援 能登里山里海創業塾

平成28（2016）年度から、受講生による創業も見据えたビジネス化を後押しするためのプログラムとして、地元金融機関である興能信用金庫との連携による創業支援プログラム「能登里山里海創業塾」を開講しました。本塾は、地域住民、能登での創業希望者を受講対象とし、一定の要件を満たした場合、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町での「特定創業支援事業」の申請が可能となっています。これにより、創業に関する様々なメリットを受けられることから、本プログラムの受講生や修了生の多くが参加しています。受講を通して、事業計画づくりとその改善、資金調達に向けた専門家のアドバイスを受けることで、ビジネススキル向上の機会としています。

講義のテーマは、「経営」、「財務」、「販路開拓」、「人材育成」などで、受講をきっかけに、ソーシャルビジネスの観点からの課題解決に取り組む研究も見られます。また、マイスタープログラムの受講生・修了生のうち、宮中恵介さん（農福連携）、萩野由紀さん（和菓子）、新谷健太さん（宿泊業）、瀬法司公和さん（地域ブランディング）など複数名が本塾の修了認定者として起業・創業しており、本プログラムが地域に根差す人材の起業・創業を後押しする制度として、着実に定着しています。

### 5-1-3. 研究支援

マイスタープログラム修了後に、自身の活動継続に必要な資金を得るため、いしかわ里山創成ファンド（石川県）などの助成金申請において、書類作成についてのサポートをしています。また、修了生による卒業課題研究の継続を個別に支援しているほか、成果を里山里海関連の国内学会や研究会などで発表するためのサポートをしています。

里山マイスター（4期）の萩野由紀さんは、マイスター修了後、地域の人の季節や自然と共に暮らす工夫を体現する組織である「まるやま組」を主宰しています。畔豆づくりや雑穀栽培、自然観察会やワークショップを実施しながら、楽しく学ぶツールの開発や、コミュニティデザインを通じて地域の農文化や自然を学び、地域活性化につなげる取り組みを進めています。

珠洲市で唯一、製炭業を営む大野製炭工場の大野長一郎さん（里山マイスター（1期）・SDGs2019専科）は、茶道に使われる「お茶炭」に活路を見だし、能登の里山の新たな価値創造につなげる取り組みを始めています。生業を通じた里山里海再生として、お茶炭を中心とした「柞（ははそ）の炭」のブランド化に着手しています。

## 5-2. 修了生の活動事例

### 5-2-1. 生業を活かした地域振興

修了生の活動事例として、多数の者が生業を活かした地域振興に取り組んでいます。

醤油メーカー4代目である里山マイスター（4期）の谷川貴昭さんは、小さな醤油屋だからこそできる原材料にこだわり、木桶で仕込む醤油作りの製法「もろみづくり」を平成23（2011）年に再開させました。地元の大豆を使った醤油づくりを介し、地元農産物振興や休耕地活用に関わっています。

里山マイスター（1期）の紀州秀幸さんは、花卉小売業経営者として、能登のサカキ産地化を目指しました。現在、能登5地区で出荷指導を行い、市場と生産者をつなぐ役割を担っています。

里山マイスター（4期）の萩野由紀さんは、輪島市三井町市ノ坂にある「まるやま」と呼ばれる里山を舞台に集落の高齢者らが風土や季節に応じて、自然を上手に利用してきた知恵や経験に学んだり、自然や農産物の恵みを科学の目や五感を使って愉しむ「まるやま組」を継続的に開催しています。参加者が里山をめぐる様々な人々のものの見方や感性に触れて、学びあい、その結果何かを作り出そうとする人々が集まる場のデザインが評価され、複数の賞を受賞しています。



## 5-2-2. 地域資源を活かしたビジネス展開

修了生の活動事例として、地域資源を活かした新規ビジネスを立ち上げている例も数多くあります。

里山マイスター（3期）の今井豊さんは、在来の和からしである「川浦からし菜」を使用した「和マスタード」（右写真）を商品化し、加工ビジネスを展開しています。現在、このような商品開発のほか、イベントの企画やIターン定住支援なども行っています。



里山マイスター（4期）の中谷なほさんは、地元食材を使用した菓子製造・飲食店の開業を行いました。地元産食材を使った菓子や軽食を作り、道の駅や奥能登国際芸術祭、マイスタープログラムの昼食をはじめとする各種イベントで販売しています。飲食店としては、平成23（2011）年より平成31（2019）年まで「小さなうち」として珠洲市内で開業を行っていました。

## 5-3. 更なる連携活動の拡大とその特徴

### 5-3-1. 修了生による同窓会組織の設立

「能登里山マイスター」養成プログラムの修了生を中心としたプログラム受講経験者の同窓会組織として、平成20（2008）年に「能登里山マイスターネットワーク」が発足しました。平成22（2010）年に「能登里山里海マイスターネットワーク」と名称を変更し現在に至ります。この組織は会員によって自主的に運営されており、修了生や受講生との交流活動、ビジネスやイベント活動での連携や情報提供の場を創出しています。

### 5-3-2. NPO法人化と社会連携活動の拡大

マイスタープログラムとの効果的な連携を見据え、修了生によるNPO法人の設立に向けた議論を重ねてきました。そして令和2（2020）年、NPO法人 能登里山里海マイスターネットワークが設立されました。

主に、世界農業遺産「能登の里山里海」の持続可能な未来をつくることを念頭に「マイスター」が様々な活動に取り組んでいます。こうした修了生たちの動きは、能登に移住してくるIターンやUターンの若者を巻き込んで、地域社会にいろいろな化学変化を起こしつつあります。受講生・修了生同士のネットワークができることで、地域を越え、異業種間で連携して課題の解決にあたっていることが、本プログラムの成果の一つでもあります。

### 5-3-3. イフガオマイスターとの連携による活動

フィリピン・ルソン島のイフガオ州の棚田でも、JICA（草の根技術協力事業 地域活性化特別枠（※自治体が申請者となる特別枠））の支援を受けて平成26（2014）年3月より「イフガオ里山マイスター」養成プログラムを実施しています。能登のマイスター育成に尽力した金沢大学の中村浩二名誉教授が中心となり、能登の人材養成プログラムのノウハウを元にフィリピンの世界農業遺産「イフガオの棚田」の保全活動に携わる人材を育成しています。



図 18 イフガオマイスターによる白米千枚田視察の様子

イフガオ里山マイスター養成プログラムは、都市部への人口流出により荒廃が進んでいたフィリピンの世界農業遺産「イフガオの棚田」を守るため、「能登里山里海マイスター」養成プログラムのノウハウを活かして担い手を育成することで、棚田保全や地域活性化を目指すものです。



図 19 イフガオマイスター座学

イフガオ族が耕す壮大な棚田は 2000 年の歴史を有し、ユネスコの世界文化遺産と国連食糧農業機関（FAO）の世界農業遺産に登録されていますが、若者たちの農業離れが進み耕作放棄地が広がっています。そこに能登のマイスタースタッフ、マイスタープログラムの修了生がイフガオを視察し、イフガオのマイスターと米づくりやエコツーリズム、棚田のオーナー制度などをテーマにした技術的な交流を開始しています。

さらに、フィリピン大学や国立イフガオ大学の研究者と連携し、イフガオ棚田にある生物多様性や伝統文化などの地域資源を保全活用して、エコツーリズムや新たな商品開発につなげるための情報交換を行っています。

また、フィリピン・国立イフガオ大学の教員と受講生及び修了生が、視察のため継続的に能登に来訪しています。来訪の際は、講義の実施、能登の棚田（千枚田）や有機栽培圃場の見学などを行い、知見を交換しています（図 18、図 19）。あわせてマイスター受講生や修了生の企画により、「よばれ」と言われる能登伝統の郷土料理のふるまいについても体験してもらいました。一行がフィリピンに帰国した後も、SNS も活用しながら相互にネットワークを強化しており、能登の国際化にも寄与しています。

#### 5-3-4. 協働による活動

炭焼き職人の大野長一郎さん（里山 1 期・SDGs2019 専科）は、耕作放棄地にクヌギを植林して生物多様性豊かな森づくりと、その恵みに根差した生業づくりに挑戦しています。NPO 法人「能登半島おらっちゃんの里山里海」との協働による植林活動は 10 年以上にわたっています（図 20）。



図 20 植林について説明する大野さん

日本 3 大イカ漁港（スルメイカの水揚げ量）のある能登町に在住する浅井英輝さん（里山里海 5 期）は、現在イカを観光資源にしたまちづくりを目指しています。マイスタープログラムの講義でも話題提供をしてもらい、里海の持続可能性について議論を深めています。

また、農薬や化学肥料を使わない野菜づくりをしている農家が集まり、月に数回、野菜を販売する「ゑ々市」が開催されていますが、この中心的な役割もマイスター修了生が担っています。

納谷春佳さん（里山里海 1 期）は、マイスター受講生や修了生による、草木染めの糸を使って作った加賀ゆびぬきや、クロモジの精油、菊炭など、地域資源を活かした商品を販売する場として「マイスターズマーケット」を手掛けています。販売のみならず、体験ワークショップも同時に手掛け、マイスターと地域とを結ぶ懸け橋となっています。

こうした社会と協働した活動を地域に広く発信するため、令和 3（2021）年 12 月に能登学舎において「能登の里山里海学会」を開催し、日頃の活動成果の発表や、修了生による体験ワークショップを実施しました。本会にはマイスター受講生や修了生、地域の方々、里山里海保全に興味のある大学生や留学生、里山里海をフィールドにする研究者などが集まり、活発な交流・情報交換が行われました。

## 6. 視察の受け入れ実績

能登学舎は、能登における里山里海再生の先進的な取り組みとして全国の自治体、民間団体による視察の重点ポイントとなっています。海外からも生物多様性条約締結国会議事務局長や、国際食糧農業機関 GIAHS 事務局長による視察の受け入れを行ってきました。能登学舎内にマイスター紹介展示コーナーを設置し、視察などへの説明に活用しています。このように能登の里山里海の国際発信、生物文化多様性の推進に寄与しています（巻末資料 2 参照）。多方面からの視察の受け入れにより、関係機関との連絡・調整が円滑になりました。

おわりに

三方を日本海に囲まれた能登半島は、美しい自然や豊かな景観、伝統的な文化や、農林漁業をはじめとする伝統的な産業が色濃く残されています。こうした地域特性が評価され、平成 23 (2011) 年に、国連食糧農業機関 (FAO) から、「能登の里山里海」が世界農業遺産 (GIAHS) に認定されました。しかし、能登地域は人口減少と高齢化が急速に進むなど社会的課題も依然深刻であり、令和 2 (2020) 年時点で奥能登地域 (輪島市・珠洲市・穴水町・能登町) の人口は約 6 万人、高齢化率は約 50% に達しています。能登半島の面積が東京都とほぼ同じにもかかわらず、能登 9 市町の人口に至っても 20 万人を割り込んでいます。

こうした過疎や少子高齢化が加速度的に進む中、能登地域において里山里海を中心とする地域資源の活用に取り組む人材や、地域で就業・起業して定住する人材など、200 名を超える地域リーダー人材を輩出したことは大きな成果であると言えます。地域に定着し、現場で地域課題解決に取り組む人材は、地域社会に有形無形の効果を生みました。このマイスタープログラムを受講することによる最大の利点は、受講生がそれぞれの卒業課題研究を通じて、地域が抱える課題の問題点を明らかにする力や、問題解決策などを提案する力を向上させることです。さらに多様な背景を持つ受講生が集まり交流することで、コミュニケーション能力が養われ、視野を広げることができた点も有用でした。またマイスターネットワークやマイスター支援ネット等を通じて、受講生と修了生、さらには地元で先駆的な取り組みを行っている者との交流が広がったことも大きな効果です。こうしたネットワークを基盤に、中山間地の複数の集落が協力し合い、都市住民との交流活動や米の販売を通じて棚田の維持を図る取り組みなど、地域活性化に貢献する活動が展開されています。

地域社会と連携し、地域課題を共有し、解決に向かって取り組むリーダーを養成する本プログラムは、地方人口の減少が進む時代において、地域再生のモデル地域として社会を先導する可能性を有しています。だからこそ、本プログラムが能登という地域全体を包括し、地域全体の活性化に貢献し続けられるかが重要であり、また将来に向けた継続的な課題でもあります。

これまでマイスタープログラムの成果の外部発信として、生物・文化的な多様性から世界農業遺産「能登の里山里海」へと着眼点を広げて展開してきました。国内の各種団体・個人の視察・研修会や、JICA の国際研修プログラムなども引き続き受け入れ、人材養成の手法や地域活性化への貢献について発信するとともに、今後の発展に向けた議論を進めていく必要があります。さらには、持続可能な社会に向けた目標としての SDGs の達成に貢献することも求められます。

これまでの成果を基盤としながら、プログラムの課題や社会的状況にも真摯に向き合い、能登地域の未来に向けた人材育成に、引き続き取り組んで参ります。

# 卷 末 資 料




【資料1 マイスタープログラムのあゆみ】

平成 16 (2004) 年 3 月	統廃合により珠洲市立小泊小学校校舎が廃校となる
平成 16 (2004) 年 11 月	「金沢大学タウンミーティング in 珠洲」開催
平成 18 (2006) 年 10 月	能登学舎にて「能登半島里山里海自然学校」スタート（三井物産環境基金活動助成、～平成 21 年 9 月）
平成 19 (2007) 年 4 月	珠洲市による校舎の改修
平成 19 (2007) 年 7 月	地域づくり連携協定の締結（金沢大学、石川県立大学、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）
平成 19 (2007) 年 10 月	地域づくり連携協定に基づき、「能登里山マイスター」養成プログラム開講（文部科学省科学技術戦略推進費、～平成 24 年 3 月）
平成 20 (2008) 年 4 月	「能登半島での大気環境モニタリングを通じた東アジア域環境ガバナンスへの貢献：能登スーパーサイト構想」（三井物産環境基金研究助成、～平成 23 年 3 月）スタート
平成 21 (2009) 年 4 月	包括連携協定の締結（金沢大学、石川県）
平成 21 (2009) 年 10 月	「持続可能社会を目指す里山里海アクティビティ」（三井物産環境基金活動助成、～24 年 9 月）スタート
平成 22 (2010) 年 4 月	金沢大学「能登いきものマイスター」養成事業（日本財団助成、～平成 25 年 3 月）開講
平成 22 (2010) 年 4 月	『持続可能な地域発展をめざす「里山里海再生学」の構築～能登半島から世界への発信』（文部科学省特別教育研究経費、～27 年 3 月）スタート

平成 22 (2010) 年 10 月	金沢大学「能登オペレーティング・ユニット」開設 (能登半島における教育研究支援組織)
平成 24 (2012) 年 10 月	「能登里山里海マイスター」育成プログラム開講 (第 2 フェーズ、実施主体: 金沢大学、連携自治体: 石川県、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、～平成 27 年 9 月)
平成 25 (2013) 年 2 月	「能登里山マイスター」養成プログラム運営委員会が平成 24 年度地域づくり総務大臣表彰 (試験研究機関表彰) を受賞
平成 26 (2014) 年 3 月	<p>フィリピンに姉妹校・イフガオ里山マイスター養成プログラムを開講</p>  <p>図 21 イフガオマイスター</p>
平成 26 (2014) 年 5 月	<p>COC (地と知の拠点) 事業として金沢大学珠洲サテライトを開設</p>  <p>図 22 珠洲サテライト開設</p>
平成 26 (2014) 年 10 月	「金沢大学地域連携推進センター 能登里山里海研究部門」(珠洲市寄附研究部門、～平成 30 年 3 月) スタート



<p>平成 27 (2015) 年 3 月</p>	<p>寄付研究部門の開設を記念し珠洲市民フォーラムを開催</p>  <p>図 23 珠洲市民フォーラム</p>
<p>平成 27 (2015) 年 10 月</p>	<p>「能登里山里海マイスター」育成プログラムの成果が評価され、珠洲市が第三回プラチナ大賞（総務大臣賞）を受賞</p>
<p>平成 28 (2016) 年 4 月</p>	<p>「能登里山里海マイスター」育成プログラム（第 3 フェーズ、実施主体：金沢大学、出資自治体：珠洲市、連携自治体：石川県、輪島市、穴水町、能登町、～平成 31 年 3 月）開講</p>
<p>平成 28 (2016) 年 10 月</p>	<p>能登学舎開設 10 周年</p>
<p>平成 30 (2018) 年 2 月</p>	<p>「能登里山里海マイスター」育成プログラムが第 7 回イノベーションネットアワード 2018 文部科学大臣賞を受賞</p>
<p>令和元 (2019) 年 6 月</p>	<p>「能登里山里海 SDGs マイスタープログラム」(第 4 フェーズ、実施主体：金沢大学、出資自治体：珠洲市、連携自治体：石川県、輪島市、穴水町、能登町、～令和 4 年 3 月) 開講</p>



【資料2 マイスタープログラムへの視察受け入れ実績】

「能登里山マイスター」養成プログラムへの視察受け入れ実績

属性	団体名
行政・自治体関係 団体	生物多様性条約締結国会議事務局長（アフメド・ジョグラフィ氏）、国連食糧農業機関 GIAHS 事務局長（パルヴィス・クーハフカン氏）、外務省アジア大洋州局、環境省中央環境審議会総合政策部会、農林水産省北陸農政局、石川県議会、神奈川県鎌倉市議会、石川県珠洲市議会、長野県木島平、石川県金沢市、石川県小松市 等
大学・研究機関等	愛媛大学、山形大学、琉球大学、兵庫県立大学、横浜国立大学、神戸大学、和歌山大学、佐賀大学、京都大学、東北大学、北海道大学、高崎経済大学、鳥取大学、宇都宮大学、東京農業大学、慶応義塾大学、早稲田大学、一橋大学、京都学園大学、国連大学高等研究所、(株)プレック研究所、(独)農村工学研究所、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 等
研究会・研修	JICA 国際協力機構北陸支部国別研修、全国過疎問題シンポジウムエクスカーション、応用生態工学会エクスカーション、廃棄物資源循環学会エクスカーション、国大協大学改革シンポジウムエクスカーション、総合地球環境学研究所シンポジウムエクスカーション、第8回地域再生プログラム実施機関連絡会議エクスカーション、全国生活研究グループ連絡協議会、JSPS/ASEAN 若手研究者交流支援事業、(財)ユネスコ・アジア文化センター国際教育交流事業、金沢大学シニア短期留学、金沢大学初任者研修 等
民間活動団体等	(財)地域総合整備財団、(財)環境創造研究センター、(財)いしかわ農業人材育成機構、(社)地域環境資源センター、NGO ラムサールセンタージャパン、(農)新庄わいわい学舎、NPO 法人世界の砂漠を緑で包む会、NPO 法人きんたろう倶楽部、奈良・人と自然の会、珠洲青年団、悠久の森実行委員会、薪く炭く KYOTO 等
メディア	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞社、北陸中日新聞、北國新聞、日本農業新聞、石川テレビ、MRO 北陸放送、月刊「広報」、Swedish Nature 等
学生実習	金沢大学共通教育科目「里山里海体験実習 in 能登半島」、金沢大学人間社会学域地域創造学類「地域発見エクスカーション」 等

「能登里山里海マイスター」育成プログラムへの視察受け入れ実績

属性	団体名
行政・自治体関係 団体	総務省地域自立応援課、石川県環境部、岡山県環境文化部、福井県大野市、鹿児島県長島町、兵庫県養父市、熊本県水俣市、マレーシア・サバ州政府、インドネシア訪問団、北陸農政局、静岡県松崎町 等
大学・研究機関等	国連大学いしかわ・かなざわ・オペレーション・ユニット（マレーシア・サバ州天然資源庁上級地質官）、国学院大学、徳島大学、鳥取環境大学、韓国農村観光大学、韓国山林アカデミー、茨城大学、東京大学、台湾国立大学、総合地球環境学研究所、愛知大学、国際自然環境アウトドア専門学校、台湾東華大学社会参与センター、中国江南大学等
研究会・研修	伊豆沼・内沼ドジョウ・ナマズ研究会、JICA 国際協力機構北陸支部 国別研修、イフガオ里山マイスター養成プログラム能登研修、金沢大学初任者研修、ユネスコ無形文化遺産「能登あえのこと」見る学ぶスタディツアー、ロシアアイディアソン in 珠洲、横須賀市議会、佐渡青年会議所 等
民間活動団体等	(財) 地域活性化センター、(株) 共立トラスト、タイ SCG 財団 等
学生実習	金沢大学共通教育科目「里山里海体験実習 in 能登半島」、金沢大学人間社会学域地域創造学類「地域発見エクスカージョン」 等

能登里山里海 SDGs マイスタープログラムへの視察受け入れ実績

属性	団体名
行政・自治体関係 団体	石川県、福井県若狭町、石川県小松市、長野県木島平村、台湾原住民 族産業創生視察団 等
大学・研究機関等	京都大学、フィリピンイフガオマイスター養成プログラム 等
研究会・研修	JICA 国際協力機構北陸支部国別研修、ロシアアイディアソン in 珠 洲、シニア自然学校 等
民間活動団体等	能登 SDGs ラボ、日本自然保護協会 等
学生実習	金沢大学共通教育科目「里山里海体験実習 in 能登半島」、金沢大学環 日本海域研究センター「サマースクール」、京都大学学生実習、金沢 大学学生実習 等



# 能登地域における人材育成事業 活動報告書【2007.10-2022.3】

## ～マイスタープログラムの成果と展望～

### 発行者

山岸 雅子 金沢大学 理事・副学長  
金沢大学先端科学・社会共創推進機構 副機構長  
金沢大学能登里山里海 SDGs マイスタープログラム運営委員長

### 執筆者

嘉瀬井 恵子 富山大学地域連携推進機構地域連携戦略室 特命助教  
(元・金沢大学先端科学・社会共創推進機構 博士研究員)

### 執筆協力者

中村 浩二 金沢大学 名誉教授  
金沢大学能登里山里海 SDGs マイスタープログラムアドバイザー

宇野 文夫 元・金沢大学先端科学・社会共創推進機構 特任教授  
金沢大学能登里山里海 SDGs マイスタープログラムアドバイザー

佐無田 光 金沢大学人間社会研究域経済学経営学系 教授  
金沢大学 学長補佐(社会共創推進担当)  
金沢大学先端科学・社会共創推進機構 社会共創推進室長  
金沢大学先端科学・社会共創推進機構 前・人材育成グループ長

篠田 隆行 金沢大学先端科学・社会共創推進機構 准教授  
金沢大学先端科学・社会共創推進機構 人材育成グループ長

淑瑠 ラフマン 金沢大学先端科学・社会共創推進機構 特任助教

木下 靖子 金沢大学先端科学・社会共創推進機構 特任助教

岸岡 智也 金沢大学先端科学・社会共創推進機構 博士研究員

小林 秀輝 金沢大学先端科学・社会共創推進機構 博士研究員

能登地域における人材育成事業 活動報告書【2007.10-2022.3】  
～マイスタープログラムの成果と展望～

令和4（2022）年3月発行

発行 金沢大学 先端科学・社会共創推進機構

〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊 33-7 金沢大学能登学舎

電話 0768-88-2568 FAX 0768-88-2899

E-mail : meister@adm.kanazawa-u.ac.jp